Monster Carp Fishing in Japan

− Diary −

Archives “Memories”

MCF Japan
www.mcfjapan.net

目　次

息子と地元釣行　2016.5.2　mi○ 1

オフ会のトラブル　2015.6.28　ぼらひで 4

あれは７年前　2013.10.12～14　煮込みマッチョ 7

不思議な体験　2013.10.12～13　中ソン 11

一発目から釣れたじゃん！　2013.3.9　ぼらひで 13

プレアデス星団　2012.9.18～21　mi○ 16

GW 北浦釣行記　2012.4.29～5.1　mi○ 21

北浦の災害復旧状況　2011.9.2～3　mi○ 25

ひとりで写真撮影　2009.9.11～13　mi○ 29

こぶちゃん親子水郷初釣果　2009.6.12～14　mi○ 33

本日 GW 最終日　2008.5.6　mi○ 37

オフ会のリベンジ釣行決行！　2007.5.17　並継のこぶ..... 40

草魚釣り　2006.7.22～23　煮込みマッチョ 44

ウキを見つめて　2005.11.4～6　煮込みマッチョ 48

老人と湖　2005.7.16～17　mi○ 54

ひで＆たまごの子連れ釣行記　2005.5.29　ぼらひで..... 57

子連れ鯉師、荒川に行く　2005.5.21　mi○ 60

爆笑！南方宙釣りの構え 2004.10.23～24 煮込みマッチョ .. 64

夢にまで見た青魚　2004.9.25～26　煮込みマッチョ 72

カズの２年ぶり釣行　2004.5.15　mi○ 76

親子で釣りに　2004.5.8　mi○ 79

コウ君デビュー戦　2003.6.22　mi○ 81

いつになったら　2002.9.6～8　mi○ 84

久しぶりに釣れました　2002.8.17　ぼらひで..... 87

北浦釣行記　2002.5.6～8　地鶏オヤジ..... 91

プロジェクトＹ　2002.5.2～3　山羊..... 94

息子と地元釣行　2016.5.2　mi○

次男のコウと6年ぶりに釣りに行くことになった。2010年の北浦オフ会以来である。今回は地元宇都宮の川。朝６時半頃到着。気温１３℃で外にいると結構寒く感じる。ボイリーはコウが選んだパイナップル・バナナとザリガニ。日本でまだボイリーが市販されていなかった頃、セモリナ粉を練って二人で一個一個丸めて作ったことを懐かしく思い出す。だから彼にとっては幼い頃から釣り餌として、そして半分は遊び道具としてボイリーがあった。

川釣りのタックル一式はセカンドハウスに置いているため、水郷用のヘビータックルを用意した。タモだけは地元の川専用の小さめの物を持参。セッティングが終わってしばらく外で話していると、だんだん体が冷えてくるためクルマに入って待つことにした。

ここで例年通りBBさん登場（笑）。朝の巡回らしい。昨日、ブロガーのクワガタ太郎さんがこの下流で５本の釣果だったことを伝えると、後でまた来ると言い残して帰って行った。

しばらくすると当たりを知らせるセンサー音。駆け寄ると穂先が全く動かず、空当たり。餌を打ち直して待機していると、その後も時間をおいて２回空当たり。食いが良くないようだ。気にせずにクルマであれこれと話し込んでいると、お昼前に待望のクリック音！「やっと来たー！！」

コウが竿を取り、ファイト開始。事前に竿の持ち方とリールの使い方をレクチャーしていたため、あまり戸惑うことなく鯉を寄せ、私がタモに入れ係。無事に取り込んで大喜びしているところに、さらに別の竿に当たり！コウが竿をとっている間に、私がタモから鯉を出して次の取り込みにかかる。ふと見ると、いつの間にかBBさんがそのようすを眺めている。さっきよりも手こずっているようだ。「重い・・・」「巻くのは早く、じわーっと竿を立てろ」そんなやり取りをしながらこれも私がタモ入れ。「これ、でかっ！」確かにこの川としては立派なサイズ。さっそく鯉を持って記念撮影。

「あ、この触った感触、懐かしい！」と言いながら、私の心配をよそにヒョイと持ち上げてニッコリしてポーズ。「なんだできるじゃん･･･」。

子どもの頃とはいえ、鯉に触ったことがあるとコツは忘れないらしい。まもなく３本目、４本目の当たりがあって、すべてコウが上げることができた。気がつくと撤収予定の昼を過ぎて、これにて終

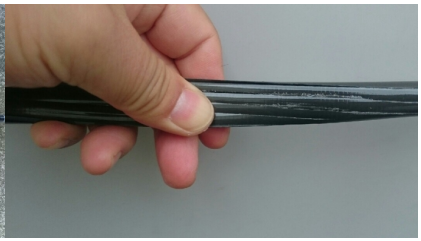
了。半日釣行だが楽しい時間を息子と過ごすことができた。

　下流に入釣していた BB さんが一足早く帰宅。申し合わせたことは一度もないが、毎年ゴールデンウィークにこの川で会うのがお決まりになっている。また来年までお互い元気に過ごしましょう。

オフ会のトラブル　2015.6.28　ぼらひで

今日は荒川で午後だけの単独釣行です。２時前にセットを終了した途端、急に風が吹き始めました。まさか雨？心配しつつ待つこと２時間半。やりました！嬉しい当たり。一人で取り込んで、水から上げずに写真を一枚。釣行記はこれにておしまい。さて、先日のオフ会（第５０回）で竿が折れてしまったので、この後はその詳細を。

折れた竿はネットにてメーカー物の半額以下で販売している物で、表示は2.75ｌｂ-12.0となっています。購入後３回目の使用で折れてしまいました。



使っていた時の状況は3.0ozのシンカー＋PVABAGにコーン入りのダンゴの握っていない餌をつめて、20ｍｍのシングルボイリーで20m位先のポイントを狙って投げた瞬間に逆並継のトップガイドがついている方の継部分がポキッと折れてしまいました。特別重たい仕掛けを投げたり、超遠投で振りまわしたわけでもありませんが・・・（涙）

この竿は画像の通り、見た目は結構いい感じです。ガイドもリールシートもグリップもいい感じですがカーボン部分がダメなようで継部分も補強が全くされていませんでした。やはり、竿は長く使うものですからメーカー物の安心できる竿またはしっかりしたショップで販売されている等以外で購入する場合は、少なくとも現物を自分の目でみてから購入する方が賢明です。まさに今回は安物買いの銭失い・・・でした。

私は昔から硬めの竿を買ってしまう傾向があり、柔らかい竿はほとんど使った事がありませんでしたが、最近はシンカー＋ボイリーで投げることが多くなり、硬い竿だと狙ったポイントに投げにくさを感じるようになってきました。ただ、柔らかい竿をいきなり買うのは勇気がいるのでとりあえず安い竿で・・・と思ったのがいけませんでしたね。

実はこの竿２本買いました。一本はこの通り折れてしまいまして、もう一本は魚がヒットして川の中に引きずり込まれてしましました。実はオフ会の前の釣行でラインがバックラッシュして絡まってしまいましたが、それをほどいて巻いてそのまま使っていました。

オフ会の画像を見ていただくとわかりますが、ロッドポッドの前に大きな石があります。恐らく魚がヒットして勢いよくラインが出た時ライントラブルがあり、ラインがガイドに絡まってしまい、ロッドポッドごと引きずられ、石に当たってバットレストが折れて（グラグラだったものを使っていました：笑）、竿が落ちた瞬間にリールのＢＲクラッチが切れて、そのまま川に引きずり込まれてしまった・・・ということだと思います。アラームが鳴り竿に向かっていっていた目前で竿が川に引きずり込まれた訳で、唖然としてしまいました・・・手があと１ｍ長ければつかめました（大笑）竿はいいからリールだけ返して～（爆）という訳でライントラブルがあった際にはケチらずにラインを巻き替えましょう！！

今回の教訓

1. ロッドを買う際にはメーカー物か信頼のおけるショップで販売されている物を購入する事
2. ライントラブルがあった際にはケチらずにラインを巻きかえる事

ごくごく当たり前のことですけど・・・

あれは７年前　2013.10.12～14　煮込みマッチョ

昨日の１２日から北浦の某ドック前に来ています。ドックの上流側はバス釣りの好ポイントで、昼間はまるで20年前にタイムスリップしたかのような混み具合でした。鯉の型は小さいけど引きは良く、久しぶりに堪能しました。日中のハイプレッシャーが影響しているのか、アタリは日没後にポツリポツリと・・・。

震災後の工事に伴いドック出口の舟道周辺を浚渫したそうで、すぐ手前でも2m前後あります。今は漁に出ないらしく船の出入りが無いので舟道に直撃しています。二回ほど杭に巻かれてバラしました（笑）。何故か舟道に入れた二番竿と、その下流の杭周りに入れた六番竿にアタリが集中しています。

ところで、中ソンさんの常陸利根川での不思議体験メールを読んで、昔の体験を思い出しましたので書いてみます。

あれは7年前、2006年の8月のことですね・・・

それまで2003年5月からずっと師匠と一緒に釣りをさせてもらっていて、「そろそろ一人で自分のポイントを開拓してやってみよう」ということで、利根川河川敷の道なき道を車が傷つくことも厭わずいろいろなポイントを見て回っていました。アオウオ釣りに一番

のめり込んで生活の全てがアオウオ釣りという時期でした。その中で見つけたポイントで初めて竿を出したのが8月12日、その日にいきなり一日2本の釣果に恵まれました。調子に乗ってその後毎週通い続けたのですが、何週目かの土曜日、釣り場に到着したのがもう日付も変わった午前1時過ぎでした。

　とりあえず竿を6本セットし、投入する前にコマセに混じっている小石やゴミを取り除こうと護岸の上でしゃがみ込み、コマセが入った箱に覆いかぶさるようにしていたのです。時刻はもう午前2時を回っていました。辺りは真っ暗、川に背を向けてヘッドランプの明かりだけを頼りに作業に没頭していると聞こえたんです、あの声が・・・。

「・・・すいませ～ん・・・」

思わず「はい？」と振り返りそうになりながらも咄嗟の判断で振り返りませんでしたよ。逆に聞こえないフリして大声で歌を歌いました（笑）。振り返ったらあちらの世界に連れて行かれると直感したので。そんな時間に利根川に船を出す人もいるはずもないでしょうし、周りの河川敷には人間の背丈を遥かに超える葦が密生しています。同じ側の河川敷の上流下流500m以上に渡って釣り人はいなかったはずです。自分は特別霊感が強いとかそう言った感覚を意識したことはありませんし、まして幽霊を見たことなどありません。霊感が強いと自称する知人が「感じる場所」とする場所へ行っても何も感じません。ですか

らこの夜の出来事はきっと何か理由・原因があったのだと思っています。対岸に誰かいたのかもしれません。密漁か何かの目的で灯りも点けずに船を出していた人がいたのかもしれません。あるいは当時仕事の都合で毎日午前3時前には起きていたので、寝不足のまま釣り場に来て幻聴に襲われたのかもしれないし。

これからも釣りをしていく限り夜中に一人で釣り場に行くことも多々あるでしょうから、この出来事を思い出さないことは無いと思っています。

師匠と一緒に釣りをしているときに言われたことがあります。一度恐怖心に取り憑かれると何もできなくなるから「そういう考え」は何とかして頭から追い出せと。言い回しは覚えていませんがこんなふうなことを言われました。あの頑固だった師匠も時々ふと自身の恐怖体験やテレビなどで見聞きした恐怖話を思い出して誰もいない深夜の釣り場やタニシを採る水路で鳥肌を立てていたのかもしれませんね。

それ以前は気を紛らわそうとラジオを聴きながら竿出ししたこともありましたが、深夜のラジオ特に夏場は突然リスナーの恐怖体験を読むコーナーが始まったりして、まったく逆効果になってしまうことがあったので夜のラジオはやめました。夜釣りで一番心がけているのは実はそう言った恐怖心を芽生えさせないことだったりします（笑）。そういう意味でも、愛犬ハナと二人で釣りに行くのはとても心強いんです。あの当時、あれだけ身の毛もよだつ経験をしたにもかかわらず

大声で歌を歌ったりして何とか朝を迎えたのは、それだけ利根川での釣りに燃えていたということです。今となってはとても懐かしいです。

　おはようございます。１４日の朝です。良い風が吹き明け方に期待しましたが、空振りに終わりました。現地からの報告はこれでおしまいです。それでは。

不思議な体験　2013.10.12～13　中ソン

不思議な体験をしてしまいました。

１２日の夜、常陸利根川へ到着した時は小雨でした。セット中にどしゃ降りになり、セット完了すると雨が上がって月が明るくなるという巡り合わせ。なんてついてないのでしょう(泣)(笑)

セット中猫が側溝の上で何か白い物を食べていました。どしゃぶりの中で体はびしょ濡れ。食べている物は米のような物ですが、米にしてはいやに真っ白。普通はヘッドライトで照らされるだけで逃げるのですが、この猫は近づいても逃げません、なぜ？そしていやに気味の悪い猫・・・。とりあえず30分程でセット完了。車へ戻る途中ふと見ると、先程の猫はいませんでした。何を食べてたのか気になって猫がいた所を見ましたが、もう何も残っていませんでした。それにしても、何か妙な雰囲気でした。暫し休憩・・・

うとうとしていて、「そろそろ当たる頃かな？」と時計を見たところ23時30分。その時いきなり背筋がぞっとして生つばをゴクリ。なんだろうと思っていた時、外から鼻唄が聞こえて来ました。一瞬「誰か来たのか？」と思い、トントンとドアを叩く音がしたら外に出ようと準備して耳を澄ましていました。でも、何かおかしい？また背筋にぞくっと寒気が走りました。「もしかして？これは・・・！」車を止めた場所は採石が敷いてあり、人が歩くと必ず足音が聞こえるはずですが、足音が一切聞こえません。鼻歌は車の後部側のすぐ近くから聞こ

えます。老人が低く唸るような鼻歌。これはヤバいと感じ外へ出ずに待機。恐る恐るカーテンの隙間から外を見ました。何ヶ所か色々な方向を見てみましたが、間違いなく誰もいない。次第に全身汗びっしょりになっていきます。姿は見えずに鼻歌は５分位でしょうか・・・。足音がないまま鼻歌は消えましたが、私の激しい鼓動は納まりませんでした。　気配が無くなってから思い切って外へ。しかし誰もいない・・・。
マジでびっくりでした。

　さすがにその場所に居続けるのは気分が悪いので、次の朝場所を移動しました。そして昼過ぎに来たのが写真の青魚です。スケールを当てていませんが、１２０cm台の青魚です。ハリを外してすぐにリリースしました。それにしても、不思議な体験をしてしまいました。もう、昨夜の場所に竿を出すことは二度とないと思います。

一発目から釣れたじゃん！　2013.3.9　ぼらひで

３月に入り、暖かい日がぼちぼちと思っていたら春を飛び越えてまるで初夏の様な暑さ　笑）思わず昨年の残り餌を引っ張り出して釣りに行ってきました。朝一番で息子の用事を済ませて帰宅したのが１１時半頃。すぐに用意をして息子と今年初の荒川に繰り出す。途中のホカ弁で昼食を二人分買って、釣り場にてランチを兼ねる。釣り場に着き、セッティング完了は１２時半頃。餌はダイワさんのメータークラブにアミノＸ鯉を３：１の割合でつなぎに缶詰コーン１個汁ごと入れて混ぜるだけのいつもの餌。食わせも同じくダイワさんのカープベイツ・スコペックス16ｍｍとこれまたいつも通り。ついでにポイントもいつもの通り（笑）

学校が登校日だったためか？野球場もスカスカ。ゆっくり釣りできるな～と弁当を食べていると学校が終わった子供たちがユニフォームを着こんで一斉に集まってきた。そういやぁ昨晩のＷＢＣ２ラウンド、最高の試合でしたね！井端様は本当に素晴らしい選手ですなぁ～、私は江戸っ子のＧファンですから、ＴとＤの選手は特にアンチなんですけども昨晩は最高でした。９回２アウトランナー無しからTとＤの選手で同点ですからね～、痺れました。鳥谷選手もよく走りました～！サインだったのか単独だったのか？ですけど失敗してたら「何すんねん！」と非難ゴーゴーの場面でしたからね。前半もっと打ってりゃ楽勝だったじゃん！ってのはおいといて・・・負けないってのがサムラ

イジャパンの強さなんでしょう！この日記がＵＰされる頃にはどうなっているだろうか？
あっ、釣りの日記だった・・・（爆）

　荒川はまだ魚のもじりや跳ねも少なく静かな感じの中、突然のセンサー音！時間は１４時半。
父「やったぁ～！来た来た！」
息子「一発目から釣れたじゃん！」
息子がネット係となるが、魚がなかなか水面に上がって来ない。釣り場に着いた時ちょうど下げ止まりだったので上げ潮を狙っての超手前ポイントに餌打ちしていて、ラインはそんなに出ていないので重たくパワーもある感じが手元に伝わる。

　やっとの魚が水面に見えるとこれがまた結構いいサイズ。荒川の年度初物にしては上々の大きさです。息子のネット係も上手くいき、無事ネットイン。魚の写真を何枚か撮り、最後に息子に魚を持った写真を撮ってもらったら肝心の笑顔が写ってな～い！楽しかったから、まぁいいかぁ（笑）

今日はこの魚を釣ったところで片付けておしまい。釣行時間わずか３時間ちょっと位。

今日は黄砂？PM2・5？の影響か？いつもスッキリ見えるスカイツリーも霞んで見えましたが、今年も楽しめそうです！「荒川」

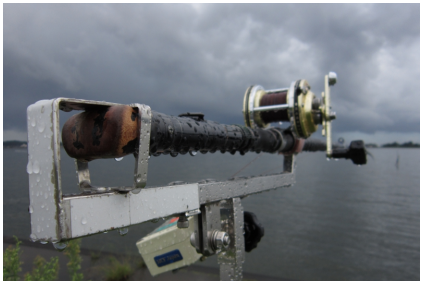
プレアデス星団　2012.9.18～21　mi○

今週は遅い夏休み。ゴールデンウィーク以来の釣りである。勤務先に休みを申請した時点では、今週あたりから秋めいてくると予想していた。しかし、予想に反して猛暑となるもよう。これも運と割り切り、車に道具を満載して北浦に向かった。

湖岸の震災復旧工事のために入れる場所がかなり限られるが、湖畔に着いてみるとほぼ貸し切り状態。南風が吹いていて、その条件からさらに場所が限定される。水質はこの時期としては悪くはないものの、暑さで厳しい釣りになりそうである。

午後１時過ぎにセッティング終了。今回は杭回りを攻めることにした。護岸に激しく波が打ち上げている。この波が収まってくれたら当りが来るのだろうか？

午後５時、地域の夕方の放送が流れる。すでに陽が西に傾いて暑さも和らいできている。車の中で待機していると、目出たく最初の当り！鯉の引きの感触をほとんど忘れかけていたため、慎重に取り込んだ。サイズはタモ枠に届かないが、春以来の一匹にまずは一安心。



その後、期待を裏切って当りが全くなし。二日目も南風の吹く中、激しい雷雨と晴れが目まぐるしく変わる。天気が荒れている間は車内で読書。今回持参した本は「魚は痛みを感じるか？」海外の

生物学者が自身の研究をベースに書いているため、ある程度の信頼性が認められる内容である。

二日目はセンサーに反応がないまま時間が過ぎた。三日目の深夜２時、一匹目と同じ竿に当り！ちょうど目が覚めかけていたので、あまり朦朧とせずに竿に駆け寄ることができた。竿を持ってみると、一匹目と同じくらいの手応え。これも慎重に取り込んですぐにリリース。なかなかサイズが上がらない。

その後夜が開けてから別の竿の当りがあったが、やはり同じくらいのサイズだったため、この場所を諦めて移動することにした。

お昼頃、新たな場所にセッティング終了。風が東寄りに変わっている。昨日までの湿気が多い南風と比べると、随分秋らしくなっている。穏やかな天気の中時間が過ぎ、夕方そろそろ食事の支度をしようかとコッヘルを出していた所、犬を二匹連れて散歩している４０代くらいの女性が声をかけて来た。

女性A「何か釣れたんですか？」

mi○「いえ、何も釣れていません。」

女性A「え？でも今何か料理しようとしてますよね。」

mi○「釣れたのはすぐに放すんですよ。」

女性A「そうなんですかぁ？」

ちょっと納得いかないような表情をしながら過ぎ去って行った。

食事の準備が終わって、いよいよ食べようとしているとき、さっきとは別の年配の女性が近寄って来た。

女性B「何食べているんですか？」

mi○「（そこに食いついてくるか！）大した物食べていませんよ。」

女性B「その箱のは何ですか？」

mi○「（まだ突っ込んで来るか…）これ、私も今日初めて食べるんですけど…」

女性の話を良く聞いてみると、ご主人と一緒に登山するのが趣味とのことで、いつも山の食事をなんとか改善したいと思っているらしい。そこで私の食事に興味を持ったというわけだ。メニューはおでんと焼きそばめし。女性が箱といっているのは、焼きそばめしのことを言っている。これは本来電子レンジで調理する物らしいが、説明書きをみるとフライパンで調理する方法を書いていたので、アウトドア用に試しに今回持参した。食べ始める前だったので、興味津々の女性に

mi○「味見してみます？」とスプーンに少し取って差し出した。

女性B「いえ、そんな…　いいです。」といいつつ、しっかり味見している。

mi○「私も初めてなんで、美味しいかどうかわからないんですけど。」

女性B「あ～、こんな感じですね。今度家で試してみます。どうも有り難うございました。」
女性が去った後、この焼きそばめしを食べてみたが…　たぶんこれは最初で最後のメニューになるだろう。果たしてさっきの女性に教えて迷惑ではなかっただろうか。家で試すと言ってるんだから、まぁいいっか。

夕方になっても湖面に魚の気配が全くない。早々と諦めムードが漂う。

深夜外に出てみると月はなく、無数の星が輝いている。水郷では広大な視界が広がっているため、雲がない夜はみごとな天空の景色を眺めることができる。今日は一カ所に６個の星が集まって微かな輝きを放つプレアデス星団を肉眼で見ることができる。和名は「すばる」。誰でも知っているこの名前だが、おそらくどこにある星なのか知っている人は少ない。フィールドサイズ５．５度、倍率１０倍の双眼鏡ですばるを覗くと、ちょうど視野内にいい感じに見える。あまりの美しさにカメラを取り出し、三脚にセットしてシャッターを切った。釣果と天気には恵まれなかった今回の釣行だが、最後の晩に別のご褒美をもらった気がした。

四日目の朝を迎えた。朝食を簡単に済ませ、今日までの写真を Mac で編集。そして、昼過ぎに撤収。最後まで魚の気配が感じられない北浦であったが、秋のシーズンはこれから。またすぐここに来ることにしよう。

GW 北浦釣行記　2012.4.29～5.1　mi○

GWの前半、北浦に単独で向かった。これが今シーズンの初釣行である。東日本大震災から一年、崩落した鹿行大橋のすぐ北側に新鹿行大橋が開通し、地元の生活が取り戻されつつあるようだ。私の携帯には前日からMCFメンバーの釣行情報が入って来出した。常陸利根川からは中ソンさん、霞ヶ浦から平石さん、北浦から煮込みマッチョさん、隅田川からは並継のこぶちゃん。皆それぞれ休日を楽しんでいるのをとても嬉しく感じる。

北浦の湖畔の状態をじっくり見て回り、最終的に釣り場に着いたのは日没に近かった。魚影が濃い乱杭を釣り場に定め、４本の竿をセットした。ここは取り込みに関しては超A級の難易度である。当たりをもらっても無事に取り込める可能性は非常に低い。それだけに釣り場では常に緊張して過ごすことになる。しかも日中よりも夜中に当たりが集中することが多い。

外で夜景を眺めながら夕食をとった。日常を離れ釣り場でのひとつひとつの行動が、本来の自分を取り戻してくれる気がする。久しぶりに聞くシングルバーナーの音。蒸気を吹き上げるケトル。ヘッドライトの光。一斉に鳴き始めるカエルの声。半月がくっきり夜空に浮かんでいる。ほとんど無風状態で湖面はおとなしく揺らいでいる。このようすだと、今夜の当たりは期待できないかなぁ。

食事が終わると急に眠気が襲ってきた。テーブルに鍋やケトルを置いたまま、車に入って横になり、その直後から記憶がなくなっていた。目が覚めたのは嬉しくもセンサーの音。時間は深夜１２時半。ヘッドライトを手にしてドアを開け、サンダルをはいて竿に向かう。その間リールのクリックは鳴りっ放し。ああ、これはまずい。走られ過ぎている。竿を手にして合わせた瞬間、鯉の動きとともにじわっとしたラインの抵抗感。やはり巻かれている。すぐにラインを緩めたり、横に竿を寝かせて煽ったりしたが、次第にラインは抵抗力を増し、最後はプチンとブレークした。分かってはいるが、やはり難しい場所である。

この夜、北浦の水温は３℃低下した。明け方シュラフだけでは激しい寒さを感じたため、さらに毛布をかぶってまた眠りに落ちた。あの一本の当たりの他には何事も起こらなかった。

朝を迎えた。餌交換をした後髭を剃り、いつも通りコーヒーを入れた。MCFのメンバーから釣果情報が届く。返すメールには「昨夜はばらし一本です」と打ち込む。今日に期待しよう。持ってきた本を読ん

だり、最近買ったパソコン、MacBook Airで新しいウェブサイトを作ったりして日中を過ごした。

夕まずめ時。外で４本の穂先を眺めていると、昨夜と同じ竿に当たり。一気に横に走り、竿を手にしてリーリングを始めた瞬間、ラインがフッと軽くなった。またしても残念。その後さらに穂先を眺めていると、目の前の竿に当たり。これはすぐにアワセられたため、無事に取り込んだ。サイズはかわいい６０クラス。

さらに夜は１１時半ころに当たり。運良く取り込めたものの、これもかわいい６０台。サイズ的には不満だが、当たりがあるだけまだ良しと自分を納得させて車に戻った。煮込みマッチョさんから携帯にメールがあり、一足先に帰宅したとのこと。カレンダー通りに仕事があるらしい。何回かメールをやり取りしている内に完全に目が覚め、眠くなるまでの間Macでサイトを作って過ごした。再び眠りに入って一時間もしただろうか、センサーで目が覚めた。今度はタモも要らないくらいのかわいい鯉で、ラインを持って引き上げ、すぐに鈎を外してリリースした。車に戻って時計を見ると４時半を少しまわっていた。昨日の未明ほどは寒くない。４本の竿にコマセを巻いて車に潜り込んだ。

最終日の朝目覚めたのは９時半、我ながらよく寝るもんだと感心する。普段どれほど寝不足で生活しているかがよくわかる。ゴソゴソと行動を開始し、ブランチをとってから撤収に入った。

型には恵まれなかったが、昨年できなかったGWの釣りを大いに楽しんで初釣行を終了した。現地出発はお昼。帰りは数年ぶりに一般道路を使ってのんびり走った。さて次回のポイントはどこにしようか…。

北浦の災害復旧状況　2011.9.2～3　mi○

台風12号が四国に接近している影響で関東も不安定な天気になっていたが、今シーズン一度も水郷のようすを見に行っていないこともあって、天気予報とにらめっこした挙句、思い切って行ってみることにした。過去のケースだと、土曜には台風が日本海に抜け、土日は台風一過で釣果が期待できるパターン。

2日の昼頃北浦に到着。通行可能な護岸道路をゆっくりと走って見回りした。常時強い風が吹いているが、雨は降っていない。上流側は鮮やかなバスクリーンのような緑色の水面で、釣りどころの状況ではない。

下流に行くにつれて、いくらか水質がよくなっているようにみえるが、見渡す限り鯉釣りの姿はない。水通しの良い場所にポイントを定め、去年の秋以来となる竿のセッティング。護岸に激しく波が打ち上げられ、水しぶきが強風に乗って堤防の上まで噴き上げて来る。このままだと、仮に当たりがあっても取り込めそうもない。雨は降らず、時折太陽がのぞく曇り空。もちろん台風が運ぶ雲であるから、南から北に向かって異常に早く流れる。その分空模様もめまぐるしく変わっていく。一晩我慢すれば台風が通過してくれるものと信じて過ごしたが、珍しいほどに進行速度が遅い台風で、中々日本に上陸しな

い。3日の昼を食べた時点で回復の兆しなしと諦め、撤収して帰宅した。一度も当たりを貰えずに、竿出しのリハビリにしかならなかったが、なにしろ現地を実際見ることができたことが何よりの収穫だった。そこで、今回のダイアリーは釣行記でなはく、震災後半年時点の復旧報告としたい。

護岸道路の状況

通行止め区間については、霞ヶ浦河川事務所のHPで6月に公表しているが、現在でもそれ以上進展していないことが確認できた。「全面通行止め」の看板が立てられて、明確にわかるようになっている。

通行可能区間に関しては、舗装の両サイドに地割れの跡が無数にあり、土で簡易的に埋めてカラーコーンと土嚢を並べ、写真のような「危険！」看板が多数立てられている。

舗装した路面を見ると、大きい割れや水門付近に発生した比較的小さな段差は簡易的にアスファルトを盛って修復しているが、細かいひび割れはそのままになっている。この路面の下に空洞や地割れが内在していることは容易に想像できる。

北浦への流入河川に架かる橋は、所により写真のように道路と大きな段差が生じ、通行できない状態になっている。日中であればわかり

やすいが、夜間で霧が発生して見通しが悪い日などは、カラーコーンがあるとは言え、ここに突っ込む恐れがあるため運転には細心の注意が必要である。また、所により割れはないが路面がうねっているため、速度をさげて通行することが必須である。

護岸道路を見回った感想としては、表面化していない空洞や地割れが多数あると考えられるため、車を止める場合は、できれば水門付近や路肩への駐車を控え、もし可能なら堤防の下にした方が安心だと思われる。時折強い余震があるので、くれぐれも安全に安全を重ねて釣りをしてほしい。尚、ご存知の通り鹿行大橋が崩落したままになっているため、北浦北部の東西の交通が非常に不便になっている。

護岸の状況

ひどく崩落した箇所は土を盛ってブルーシートで覆いその上に土嚢を並べているが、それほどひどくないところは放置されている。護岸の継ぎ目がずれているところが多数あり、簡易補修したところでも不自然な段差があるため、足元に注意して歩く必要がある。護岸が沈下したところが多いのか、波が打ち上げられて水が溜まってしまう場所が見受けられ、これも釣りで取り込みの時など足元をとられる恐れがあり、注意を要する。

一般道路の状況

北浦周辺の一般道路も所々陥没や地割れの跡が見られ、小規模のところはアスファルトで補修している。また路面にうねりが生じているところもある。大規模に路肩が崩壊した箇所は、道路を一車線通行に規制して大規模に道路工事を行っていた。茨城県は瓦屋根の家が多いのだが、震災による瓦屋根の破損が未だに補修できない家が多数見受けられる。この地域一帯の被害のツメ跡が半年経過した今も生々しく残っている。

以上、この秋の釣行の参考になれば幸いです。

ひとりで写真撮影　2009.9.11～13　mi○

１２日（土）は子どもの運動会が予定されていたため釣りの計画はなかったのだが、新型インフルエンザが学校で流行しているとのことで、運動会は急遽延期。当然、秋のベストシーズンであるから、この機会を逃す手はない。タックルを積み込んで、およそ二カ月ぶりに水郷へ走った。今年は珍しく秋が早い感じがする。北浦の活性も上がっているのだろうか？いつものように釣り人が少ないところでのんびり糸を垂れてみるとしよう。

11日（金）夜、現地に到着。湖面をライトで照らし、手前から遠方まで杭の位置をしっかり確認する。仕掛けは、前回のDiaryで紹介した遠投タニシ仕掛けである。今までコマセタニシが届く範囲でしか打ち込むことができなかったが、この仕掛けになってからは手前から５０ｍ以上まで、どこでも狙うことが可能になった。狙う範囲が横一線から、縦横二次元に拡大され、今までできなかった攻め方まで可能になった。杭の位置、湖底の状態に応じて、一本一本の竿の投入距離を変化させた。今夜は波もなく穏やかである。ぐっすり眠るとしよう･･･。

眠りの世界から突然現実に引き戻されるセンサー音！車から飛び出すと、一番手前の杭に打ち込んだ竿から断続的にラインが引き出されている。時間は４時半を少し回っている。時折首を振る

感触が伝わってくる。無理をしないように徐々に水面に浮かせ、一発でネットイン。均整のとれた体型の鯉のサイズは８６ｃｍ。三脚をセットしひとりで写真撮影をする。なかなか思うようにフレーミングが決まらず、５回くらいでやっと成功。

１時間ほどして次の当たり。今度は７５ｃｍくらいだった。午前中は当たりがぱったりなくなったが、昼前にやっと３回目の当たり。期待に反して５０台の超可愛い鯉だった。段々サイズダウンしていく。

少しいやな予感の中、昼過ぎにまたまた当たり。竿を手にするが沖に向かって一気に走られる。スプールに指を当ててラインの出をコントロールするが、それでも止まらない。一瞬走りが止まった瞬間にリールを巻くが、すでに沖の掛かりに入られビクともしない。左右にに位置を変えて掛かりから出そうとするが、がっちり引っ掛かって動く気配なし。鯉がラインを引っぱる気配もない。最後のあがきに、ラインをゆるめて竿をピトンに置いてしばらく様子を見るが、やはり動く気配がない。渋々ラインを切ることにした。いい走りだったなぁ･･･。

午後になって、私が北浦にいることを知ったフィッシングライターの山本さんが、わざわざ２時間半もかけて訪問してくださった。以前から、機会があったら仕事抜きで釣り場でお会いすることを約束していたが、それがやっと実現できた。海外取材から帰国し、束の間の時間が取れたそうだ。プロのライターでありながら、アマチュアのホームページ管理人の私の話を同じ目線まで降りて聞いてくださったり、出版界の事情などもお話してくださった。気がつくと辺りは真っ暗に

なっていた。かれこれ４時間近く夢中で会話していたことになるだろうか。雨がぽつぽつ落ちてきたのをきっかけに、お別れすることとなった。貴重な時間を割いてくださって、心より感謝します。

この後、雨脚が激しくなって来たが、なんとか餌を打ち直して車に入った。夜中に７０台が一本来た後、さらに当たりが３回あったが、いずれもやり取りの最中にすっぽ抜けてしまった。手応えからすると大したことがないサイズだった。今夜は小鯉の群れが寄ってしまったんだろうか。

１３日の朝、５時過ぎに目が覚めた。バーナーでお湯を沸かしてコーヒーを入れる。湖面を眺めながらすする熱いコーヒーは、いつも気分を爽快にしてくれる。

６時を回って、もういい加減当たりがあってもいい頃だと思い竿の近くをうろうろするが、昨日とは違ってまるで反応がない。車の外でラジオを聴いてのんびり待つ態勢に入ろうとした途端、ちょうど車の陰になっている竿からラインが引き出された。「よし、きたーっ！」竿を手にすると、ゆっくりと沖に向かう手応えを感じる。今回最後のチャンスかもしれない。昨夜の連続すっぽ抜けのトラウマがあるためゆっくりと竿を立て、首を振らせないようにじっくりと寄せた。ほとんど岸際まで寄せたが、まだ浮いてこない。向こうが浮いてくるのを待って、右手にタモを抱えているとやっと頭が少し見える。しばらくして横たわって浮いたのを確認し、すかさずネットイン。マットまで

移動してハリをはずし、検寸台に乗せると９３ｃｍだった。少し痩せ気味ではあるが、満足なサイズである。昨日と同じように、三脚にカメラをセットしてひとりで記念撮影をする。今回も５、６回撮影してやっとＯＫとなった。

この後当たりは途絶え、１０時少し前に撤収を開始した。今回は遠投タニシ仕掛けで９回当たりがあり、５本の釣果。出した竿にほぼ満遍なく当たりがあったのが嬉しい。すっぽ抜けが多かったのが気になるが、食わせタニシの付け方にまだ工夫の余地があるのだろうか。次回に向けてまた嬉しい課題を発見し、帰りのハンドルを握った。

こぶちゃん親子水郷初釣果　2009.6.12～14　mi○

今回の水郷釣行は、こぶちゃん親子とご一緒することになった。金曜日の夜、霞ヶ浦で待ち合わせ。私が到着した時にはすでにこぶちゃんはタックルのセッティングが終了し、娘さんのさきちゃんと夕食中だった。

「こんばんは。遅くなってすいません。」

「いえ、ちょうど今竿を出し終わったばかりですから。」

到着後、空いている場所を入念に底探りして竿の位置を決めた。場所は悪くないはずだが、風向きからするとひょっとしたら当たりをもらえない可能性もある。もしも翌日の昼まで三人の竿に鯉の反応がない場合は、場所を移動することを申し合わせた。

こうした予想だけはよく当たるもので、土曜日の昼前には移動を決定した。急いでタックルを撤収し、私が先導する形で次のポイントを探した。しばらく走ったところで、「そういえば、この近辺はあの人のホームグランドだな・・・」　と思い、ちょっと携帯で連絡をとってみた。携帯の向こうは、かつてMCFの掲示板を運営していた時に書き込みをして下さった「はなくそまんきんたん」さんである。色々教えていただきながら、結局鰐川に竿を出すことにした。

私とこぶちゃんは竿を出す位置が少し離れることになったが、さきちゃんは両方の場所に竿を二本ずつ出すことにした。結局これが彼女に幸運をもたらすことになった。

夕刻になり、こぶちゃんに最初の当り。上がってきたのはまだ若い青魚であった。こぶちゃんにとってこれが水郷初釣果であるため、記念撮影することにした。可愛いアオを手にニッコリしてハイ、ポーズ！。

「よし､サイズアップするぞ！」 俄然やる気が出てきたこぶちゃん。

夜になって強い風がふき始めた。ピトンに掛けたタモの網が水平になっている。こんな日は期待できるかもしれない。気温が急激に下がってきたため、外での夕食を早めに切り上げて車に潜り込んだ。

夜１０時、私の横に出したさきちゃんの竿に待望の当り！こぶちゃんと私が竿に駆け寄り、その後少し眠そうなさきちゃんが上着を手にしてやってきた。上着の袖に腕を通そうとするが、ちょっと慌て気味のせいかなかなか通らない。その間、私は竿掛けに置いたままの竿のスプールに指をかけ、ラインの出加減をコントロールしながら彼女の準備を待った。やっと上着を着て、いよいよファイト！右側に走られていたため、その方向にある杭に巻かれないように祈りながら、タモを手に彼女のファイトを見守った。こぶちゃんはファイト中のさきちゃんにやりとりのアドバイスを出し続けた。途中でラインの動きが止まったように見えた。

「引っ掛かった感じする？」心配になって思わず聞いた。

「ん～、わかんない・・・」　無理もない。彼女はこれが水郷で初めてのやり取りである。おそらく、杭に巻かれた経験がないのだから。「いや、大丈夫だ。もしかしてこれ、でかいかもしれないぞ！」　さきちゃんに起っている事態が徐々にわかってきたこぶちゃんが、少し興奮気味に言った。周囲のラインを数本引っ掛けながら底を這うようにラインが動く。渾身の力で石鯛竿を立てるさきちゃん。やがてヘッドライトの光に浮かんだ姿は青魚である。その後何度か潜り込もうとするアオを引き寄せ、私の構えるタモに無事納まった。

　マットに乗せると尻尾がはみ出ている。検寸台を持ち出し、こぶちゃんと二人で計測した結果１１０ｃｍ。さきちゃんの水郷初釣果である。喜びの中、記念撮影をしてすぐにリリース。それにしても、彼女

はなんと強運の持ち主なのだろうか。数年前、荒川での初釣果は８０ｃｍの鯉。そして今回。

　その後、夜中過ぎと翌朝にさきちゃんの竿に鯉がヒット。いずれもこぶちゃん側に出した竿に当たりが来た。一度青魚を目の前にした後だけに、

「小さい鯉だね」　と、さきちゃん。

「こんなに釣れているのに、お前は何を言ってんだ（笑）」　と、こぶちゃん。親子の楽しい雰囲気に包まれつつ、昼過ぎに撤収となった。ところで私の方はというと、今回は完全にカメラマンで終わった（笑）。一向に上達する気配がないから、将来はさきちゃんに手ほどきを受けることにしよう。

本日 GW 最終日　2008.5.6　mi○

本日GW最終日、やけに天気がいい。こんな日は、釣りに行きたくて体がうずうずしてしまうので、家の用事を済ました後、急遽次男のコウを連れて地元の川に行くことにした。「拙者の石鯛４００」二本と「Abu-BG7000HS」を２台、タモと餌、そして仕掛けを車に積んでGO！

家から車で１０分弱。こんな釣り日和でもポイントはガラ空き。息子はベイトリールを使うのは初めてなので、エサを付ける前にキャスティング練習をした。一投目、軽いバックラッシュ。サミングのコツを教え、ブレーキを私が使う時よりも少しきつめに締め直して２投目。今度はうまくできた。思ったよりも飲み込みが早い。

mi○「このリールと前使っていたスピニングとどっちが使いやすい？」

コウ「こっちの方がわかりやすくていい。」

スピニングはキャスティングの時にストッパーとベイルをいじる必要があるが、ベイトはクラッチだけだ。ベイトは回転するスプールを直接指で止めるため、直感的に理解しやすいこともあるようだ。私の感覚ではスピニングは使い易く、ベイトは癖があると思い込んでいた。先入観のない子供の感覚では、ベイトが簡単でスピニングが面倒と、予想もしない答えだった。バックラッシュの少ないAbuは、５年生の子供でも簡単に使いこなせてしまうようだ。

午後３時４５分。私と息子はそれぞれ一本ずつ竿をセットし終えるとすぐに車に戻り、息子が持ってきた将棋を遊んだ。車内改造でセカ

ンドシートの間に作ったセンターコンソールは、将棋盤を置くのに絶好の台である。

３０分後、今日も完敗（笑）。もともと私はそんなに強いわけでもないのだが、この前勝ったのがいつだったか思い出せないくらい連敗が続いている。悔しいやら、嬉しいやら・・・。そんなことをしていると、突然私のリールが「ギーィ！」。

「お、来た来た！パパの方に釣れたぞ！」

ここは水深が浅く、鯉は横によく走る。下流に向かったと思うと今度は上流に向かって走るのを楽しみながら、息子が構えたタモに鯉を誘い込み無事にネットイン。６５ｃｍのレギュラーサイズだったが、久々に鯉を釣ったので結構嬉しい（笑）。

私のエサの打ち返しと同時に、息子もダンゴを握って一緒に打ち返しをした。距離はさほど出ないが、何とか狙ったポイントに近い所に投入することができた。

この付近にはキジが住み着いていて、今日も鳴き声が聞こえる。たまに姿を見せることもあるが、今日は残念ながら見ることはできない。こうしていつまでもキジが住み続けられる自然であってほしいものだ。

３０分ほど経つと、今度は息子のリールが「ギーィ！」。慌てて駆け寄って竿を手にし、ファイト開始。竿を立てるように時々息子の横で

声を掛けているうち、落着いて鯉を寄せられるようになったのを確認できたので、私はタモを持って川岸に降りて行った。草の根付近に寄ってじっとしている鯉をネットイン！タモの柄をはずして枠を持ち上げ、嬉しい記念撮影。

　リリースしたところで６時になったので、本日はこれにて終了。２時間くらいの釣行で一匹ずつ釣りあげ、気分上々で撤収した。

オフ会のリベンジ釣行決行！　2007.5.17　並継のこぶ

先日（５月１２日）の初めてお誘い頂いたオフ会。対岸とは言え地元の川での無様な結果・・・地元鯉師としてのプライドに火が着き、リベンジの時を密かに計画しておりました。なんか、すご～い大袈裟な書き出し（笑）。実際は、正直悔しさはあったものの、メンバーの皆さんから学んだ数々の事を、先ずは実践し、試してみたかった事が、今回の釣行の目的でした。

天気予報では、午後まで雨、所により雷を伴う・・・という最悪の予報。しかし、「その後晴れ」という予報を信じ、朝から、先日教えて頂いた遊動式の２本針仕掛けを作りながら天気の回復を待っていました。ふと窓から外を見ると、雨も上がり、空は明るくなっているではないですか！早速、道具を自転車に積み込み、「雨のち晴れ」の天気予報を信じ、先日のオフ会のポイントへ猛ダッシュ。（通常は担ぎ込みスタイルですが、荷物の軽量化や竿積み方等、自転車での釣行もオフ会で学び、今日はチャリンコ！）

ポイントに到着し、ひでさんから借用中の竿掛けに竿２本をセットし終わった時、明るかった空が、再び灰色になり、南の風と共にやや強めの雨が落ちて来ました。晴れを信じていた為、カッパも傘も雨具というものを持っていません。空を眺めても、上がる気配もなく、木の下でひたすら耐えていましたが、既に全身びしょ濡れ状態。ちょうどその時、上げ潮に乗って、ブルーシートが１枚流れて来ました。タ

モ網をめいいっぱい伸ばし、ブルーシートをすくい上げ、木の枝に引っかかっていた怪しげな気味の悪いヒモ？を外し、木の下に簡易テントのような物を作り雨風をしのぎながらアタリを待つことにしました。

すると灰色の空が黒に変わったと思った時、急に風が北に変わりました。間違いなく雷の兆候です。雨も大粒になり、たたきつけるような勢いに変わりました。しかし、今日はリベンジ釣行、ここでギブアップする訳には行きません。雷を回避するため、グランドのトイレに逃げ込み、雷雲の通過をひたすら待ちました。（想像を絶する悪臭でしたが、命には代えられないので・・・ただただ忍耐）およそ４０分で雨は小降りになり、空を見ると、北の空には既に青空が見えておりました。気合いを入れ直し、釣りの再開です。

最初の投入から既に２時間近く経過していた為、改めてエサを打ち直し、アタリを待つことにしました。その内に、カッパと着替えを持ってカミサンが到着。既に空は快晴だったので、カッパは無用の物となってしまいましたが、ずぶ濡れの体に、着替えはありがたかったです。さっそく着替えを終え、さっぱりとした気持ちでアタリを待つことが出来ました。

２時３０分ごろ、上流側の竿に待望のアタリ！慎重にあわせ、鯉の重みを感じながら、やり取りの開始！（オフ会では、このあわせでバラシている・・・反省、反省）　あまり抵抗せずに上がって来たのは、やや小振りの６８ｃｍ。荒川ではレギュラーサイズかも？

下流側の竿も同時にエサ交換し、再びアタリを待つこと１時間。今度は、下流側の竿にアタリ！！クリック音を響かせながら、フリーにしていたリールから糸がどんどん出ていきます。期待を込めて、慎重に竿掛けから竿を外し、あわせ。ずっしりとした重量感で、糸を引き出しながら竿をしぼって行きます。これぞ最高のひととき！慎重に・・慎重に・・高ぶる気持ちを抑えながらのやりとりで、ようやく顔が見えた瞬間！「これはデカイ！９０あるぞ！」とカミサンに叫んでしまいました。　荒川での自己記録は８５ｃｍ。その時の鯉の顔よりも一回り大きな顔だった。（ような気がしただけだったのかも・・・）更に時間を掛けて、無事取り込みに成功！検量の結果、９０にはかなり足りない８４ｃｍ。いつもの鯉に比べ、若干尾ヒレが小さい様に感じるのは、欲張りな私だけだろうか・・・？

その後、エサ代えをし、５時までアタリを待ってみましたが、３本目のアタリはなく、納竿することにしました。しかし、リベンジ釣行で２本の釣果。これは、「満足」の一言に尽き、またカミサンの着替えにも感謝感謝の１日でした。そして、先日のオフ会で教えて頂いた事を一つ一つ確認をしながらの釣りで釣果が得られた事は、今後の自信に繋がる大変良い成果であったと思っています。mi○さん、ひでさん、ありがとうございました！これからも宜しくお願い致します！

　このポイントにはもうしばらく通って、自己記録の更新を狙ってみたくなりました。

欲張りの　並継のこぶ　でした・・・

草魚釣り　2006.7.22～23　煮込みマッチョ

７月２３日（日）、前日の夕方から霞ヶ浦の某所へ入っていた。３月からずっと通い続けている利根川はしぶとく居座っている梅雨前線による大雨で、とうとう釣りができない状態にまで増水してしまったからである。どうせ利根川に行けないならいつもと違う釣りを少し腰を据えて（？）やろうと思い立ち、目的を草魚「だけ」に絞って食パン持参で出発した。

竿はいつもより少ない4本でセット。うち３本は草針をアシ際に浮かせ、１本は食パンをエサにして３０ｍくらい投げた。「腰を据えて」などと書いたけれど、仕掛けはいつも利根川で使っている1本針にそれらしくアシの葉を束ねて付けただけ。食パンも同様で耳を取ってギュッと握り締めて白いダンゴにしたものに1本針を刺しただけ。草魚を専門に狙う方々から笑われてしまうような付け焼刃的な釣りだ。でもこれで草魚が釣れたらラッキーだよなあ・・・と準備段階ではワクワクしていた。

いちおういつものようにセンサーをセットしておいたけれども、当たる確率の高そうな夜中に鳴ることはなかった。草針はともかくパンはいくら硬く握り締めたとしても水中ではそう何時間もエサもちするとは思えなかったが、夜は早々と眠りに就きエサ交換したのは夜もすっかり明けた５：３０。ついでに草針を付けた３本の竿のうち１本を食パンに変更しやはり３０ｍくらい投げた。草針のほうは齧られた形

跡もなく昨日のワクワクした気持ちも失せて、「やっぱり考えが甘いなあ・・・」と諦めムードが漂い始めた。

天気は昨日からずっと曇り。しかし昨日よりは雲が厚いように見える。暑くも寒くもない過ごしやすい陽気だが、いい加減夏らしいギラギラ照り付ける日差しも恋しい。

近所の田んぼや水路などを散策してから車内で一息つき、コーヒーでも飲もうかと思っているといきなりセンサーが鳴った。３番の竿だと知らせている。時計を見ると６：１８。まだ寝ぼけていたのか「３番だと草針だっけ？パン？あれ？」とセンサーが鳴ること自体半信半疑でパニックになっている。

車から出て竿に駆け寄ってみると、てっきりギューッと絞り込まれていると思った穂先は真っ直ぐのままだった。ただ道糸がセンサーのスイッチから外れているだけ。この３番の竿はさっき投入したばかりの食パンを付けている仕掛けだ。そうなるとアメリカナマズをはじめ草魚以外の魚が食ってくることは十分考えられる。いずれにしても空アタリだったようで竿は沈黙している。

ところがそのまましばらく様子を見ていると、やがて穂先がスーッとゆっくり引き込まれ「あれあれ？？」と思ううちに竿全体がグイーッと大きく撓るまでに曲がり、ついにはギーッというクリック音とともに道糸が引き出されたのだ！

「やっぱり何か掛かっている！！」すかさず竿を持って大きく合わせるとなかなかの重量感が伝わってきた。久々の良型の予感。それでも

この時点ではせいぜい８０ｃｍ台の鯉だろうと思った。ドラッグを調整しながらどんどん糸を巻くが相手はなかなか水面に出てこない。ハリスと道糸を結ぶスイベルが水の上に出てきてもまだ見えない。いつにも増して濁った水では、水面直下でもその姿を透かして見ることはできないようだ。

「食パンを使った初めての釣果なのでバラしたくない。」

そういう思いも頭をよぎり、やり取りが慎重になる。どうも変だと感じたのは沖へ向かって突っ走るときのパワーだった。並みの鯉よりも力強いと思った。ひょっとしてメーター級？

　やっと１０ｍくらいまで寄せてきて初めてガバッと水面を割った顔は想像以上にデカかった。しかも鯉とは違う顔だった。アオウオかと思ったが色は白っぽいし、次に見えた巨大な尾ひれが真っ黒ではなかった。どうもこれが草魚らしい。全長は確実に１ｍは超えている。実は草魚という魚を実際に見たことがなかった。雑誌やネットの写真でしか見たことがなかったので、今こうしてやり取りしている巨大魚が草魚だという確信が持てなかった。

　ここで玉網を水に入れて取り込みの態勢に入る。しかし、これに驚いたのか相手はまた沖に向かって突っ走る。やがてまた水面に出てきておとなしくなり、スーッと寄ってくる。そのまま玉網に入れようとするとまた走る。今度は左手にある水門の中へ入ろうとする・・・こんなことを何回か繰り返し、やっとの思いでどうにか玉網に入れることができた。玉網に入れた途端、バシャバシャバシャッ！！と水しぶ

きを上げて大暴れ。中途半端に柄を持っていたらきっと枠が曲げられるか柄を折られていたに違いない。「草魚は玉網に入れると大暴れする」という噂は本当だった。腰から下はずぶ濡れ、おまけにひざ下辺りに尾ひれでローキックを食らってしまった。やっとの思いで陸に上げてメジャーを当てると１２０ｃｍ 。

「これが草魚か。なんだかよくわからんうちに釣れちゃったなあ・・・。」
それが正直な感想だ。初めて釣った草魚がこんなサイズで嬉しいのを通り越して何だかポカーンとなってしまった。

その後同じ竿にまたアタリがあったが、これはアメリカナマズだった。結局これ以降は何のアタリもなく終了したが今までにない釣り味を楽しめたので大満足だった。また、食パンは重要なエサだということを実感した。あとは草針でどうやって食わせるかということを時間が許す限り追究してみたいとも思った。

ウキを見つめて　2005.11.4～6　煮込みマッチョ

ｍｉ○さんと約束したとおりウキ釣りをやるために北浦へ。だがタニシを使用してのブッコミ釣りもやることは暗黙の了解である。今シーズンの北浦は実は三回目である。はっきり言ってこれほどウキ釣りが面白いと思わせてくれたのは北浦が初めてである。たぶん今年中にもう二回くらいは行ってもいいと思っている。

夜１１時過ぎに申し合わせたポイントに到着。４０分ほど前に到着したｍｉ○さんはもうほとんど竿を出し終えこれから投入という体勢だった。今回の釣行がｍｉ○さんにとって今シーズン最後の水郷方面ということで気合が入っている様子。私もウキ釣りメインとはいえ北浦ではまだブッコミでの釣果がないので密かに期待はしている。

天気は晴れ。少し霧が出ている。気温は１２～１３℃だが風がほとんどないので寒さはあまり感じない。

ｍｉ○さんから状況を教えていただき１００ｍほど離れた水門前に入る。先月延べ竿で数釣りを楽しんだポイントで、きっとブッコミでもいいはずだと思い目をつけておいた。ｍｉ○さんによれば、ここはかつて実績があったとのことだが、今年はここよりもドック寄りで実績が多いとのことで、私とｍｉ○さんの間には二組入っている。さすがに週末の北浦は混んでいてここぞと思われるポイントにはことごとく釣り人がいる。だがこの水門前はなぜかみんな避けるようにしているのが少し気になった。とはいえ今回はウキ釣りがメインなので早く準備してしまおう。

日付が変わって１時半頃に投入、コマセを撒き終わった。ｍｉ○さんは仕事の疲れもあり先に仮眠に入った。私はとにかくウキ釣りがやりたかったので、ヘラウキにケミホタルを装着し実釣開始。

延べ竿での本格的な夜釣りは初めてだ。しかも真夜中である。初めの３０分くらいは全くアタリがなかったが、やがてアタリが出始め最初の消し込みが。すかさず合わせる。乗った！ギューンと糸鳴りがして重さを感じる。と思ったらバラシ。残念！！

昨年の秋に竿を折られ、先月新調したこの竿では道糸５号・ハリス４号という組み合わせが絶妙のバランスらしく、多少竿を伸されてから強引に立てても切られることがなくなった。今回のバラシもやはり仕掛けは無事だった。食いが浅いのか口切れを起こしたのか、或いはスレか？

このアタリの後、１時間くらいは何のアタリもなかったので真夜中はダメか？と思い始めたが、３時近くになってやっと当たり始め、３５ｃｍくらいの鯉をゲット。今まで経験したウキ釣りの中ではまあまあの合格サイズである。前回の時は日中の釣果で２４本中半分以上が２０ｃｍ前後の鯉っ子だった。夜中のほうが型がいいのだろうか？それならまた７０ｃｍクラスが釣れたらいいなあと期待が膨らむ。

星が降るようなきれいな夜空である。じっとウキを見つめてひたすら没頭するが、ほとんど腕しか動かさないので次第に体が冷えてくる。５時頃になってそろそろ東の空が明るくなってきた頃に寒さはピークに達した。おそらく気温は５～７℃くらいであろう。全身がガタガタ

振るえ、歯がガチガチ鳴る。それでもウキが動いているうちは眠くならず、もっと釣りたい欲求が次から次へと沸いてくる。「釣り中毒」なのだろうか？

ひとしきりアタリが続き３０分ほど沈黙する。そんなことを繰り返しとうとう夜が明けてしまった。ついに徹夜で釣りをしてしまった。初めての経験だがこれもまた楽しい。来年はもっと暖かい時期にやってみたいと思った。夜のウキ釣りは水面の照り返しがなくケミホタルの頼りない明かりだけなので、却ってアタリが取り易く目が疲れないという利点がある。ただし私は左右の視力が１．５と０．６なので遠近感がなくなってしまうが・・・

明るくなってからアタリがなくなってしまった。ここまでで１０本の鯉を釣り上げた。だいたい３５～４５ｃｍくらいのものばかり。大物は出なかった。８時過ぎにｍｉ〇さんが様子を見に来なかったらまだ続けていたのではないだろうか？朝のうちｍｉ〇さんもウキ釣りをやったがアタリがなかったとのこと。どうも早朝はダメなようだ。さすがに疲れたので車の中で仮眠を取った。この時点ではブッコミは二人ともアタリなし。

昼頃に起き出してまたウキ釣り。放っておけばいくらでもやってしまいそうだ。何だか怖い・・・

夕方になり今度はｍｉ〇さんのポイントへ行き、ｍｉ〇さんが用意した七輪を囲みながら小さな水門の脇で並んで竿を出す。私が竿を出す直前にｍｉ〇さんが早速釣り上げた。これが今回のウキ釣りでの最大サイズだった。５５ｃｍ。そうなるとこのポイントでも期待が持てる。

結局二人揃って真夜中の１２時までウキ釣りをしてしまった。というより私がｍｉ〇さんを付き合わせてしまったと言うべきか・・・

ただ、このポイントで少し先行きが不安になる出来事があった。それはアメリカナマズが釣れてしまったということ。ｍｉ〇さんと二人で５～６本は釣ってしまった。最初の１本を釣ったのは私だったが、それ以降ウキがおかしな動きをすると嫌な予感がするようになってしまった。北浦がお気に入りのｍｉ〇さんも相当なショックを受けていた。アタリが出るたびに「これナマズかも・・・」、と合わせるのを躊躇していた。実際に掛かった魚を寄せて来るときにライトで照らしあの真っ白い腹が見えると「ちょっと白いなあ・・・」と呟いていた。

利根川や霞ヶ浦ではすっかり定着してしまい、タニシ以外の餌を使えば必ず釣れてしまうこのナマズだが、北浦だけはその数はまだ少ないと思われた。特にウキ釣りで鯉やヘラブナを狙うには「最後の砦」的な北浦だっただけに、これはショッキングである。先日の霞ヶ浦で

のオフ会でウキ釣りをしたときは百発百中アメリカナマズだった。早ければ来年には同じような状況が北浦でも起こるかもしれない。

結局この日もブッコミにはアタリがなかった。隣の人は何本か上げているようだったので期待はできるのだが。

寝不足が祟って翌朝は９時頃まで熟睡。夜中もアタリなし。今日は曇りだ。起きてすぐ師匠から電話があった。最近は直接顔を合わせることが少なく、たまには一緒に竿を出したいなあと思った。

師匠からの電話が終わるとすぐｍｉ〇さんから電話が入った。先ほど７０台が出たとのこと。もちろんブッコミで。とりあえず結果が出たのでこちらも気合が入る。ということでまたウキ釣り。曇り空なので日中でもウキが見やすいが、夜中と比べるとアタリが少ない。そんな中ｍｉ〇さんからお茶に誘われたのでお言葉に甘える。朝釣れた鯉の写真を見せてもらうと北浦としてはスリムな野鯉体型のかっこいい鯉だ。

そんな時に再びｍｉ〇さんの竿にアタリがあったが残念ながらバレてしまった。重さはなかなかのようだったのでｍｉ〇さんはかなり悔しそうだ。相手が沖に向いて頭を振ったときに外れたようだ。

撤収予定時間まで残り僅かなので私も仕掛けを打ち換える。手間を省いてタニシは針に直付け。そしてまたウキ釣り。

午後２時頃ｍｉ〇さんが撤収。本当は私もこの辺りで撤収するつもりだったが諦めきれないのでブッコミの竿の穂先をチラチラと横目で見ながら更にウキ釣り。曇り空が更にどんよりしてきて今にも雨が降

り出しそうだ。天気の変わり目、何だか釣れそうな雰囲気なのだ。直付けにしたので更にアタリが出るような予感もした。一度、水門から４０ｍくらい沖で９０ｃｍはあろうかと思われる鯉がものすごい大ジャンプを見せてくれた。大袈裟に言えば水族館のイルカのように空中で一回転したように見えた。あれはレンギョだろうか？気が付くと付近の他の釣り人は撤収していた。それに合わせるかのように魚の活性は上がってきた。

３時過ぎ、チラッと見ると何と２番の竿の穂先が入っているではないか！！やがてセンサーも鳴り出す。ついに北浦でのブッコミ釣果！？あまり走らないがギッギッとクリックが鳴る。そんなに大きくはないようだがとにかく来た。

だが、思いっきり合わせたらそのままフッと軽くなってしまった。「あちゃ～！！」釣れないときはこんなものだろう。

やがてとうとう雨が降り出し片付け始めた。こうして今回の北浦釣行も終わった。

老人と湖　2005.7.16～17　mi○

梅雨もそろそろ終りに近づき、灼熱の太陽がもうすぐそこに来ている。おそらく今週が前半戦最後の水郷釣行になる。北浦は、所によって既にアオコが発生しているとのことで期待が薄い。例年よりやや水質がよい霞ヶ浦に単独で入釣した。

誰もいない水門に到着したのが金曜の夜１１時前。誰に気兼ねすることなく、車のヘッドライトで照らしながら竿をセッティングする。水門のすぐ脇で鯉が跳ねている。今日は手前に打ち込むことにしよう。途中から雨がポツポツと落ち始めてきたので急いでエサを投入し、車に逃げ込んだ。時計はすでに０時を回っていた。

車の窓に防虫ネットを張ってきたが、今夜は窓を全開にするほどの暑さでもない。すこし隙間をあける程度にして眠りにはいる。夜中に何度か目が覚めたが、センサーは鳴ることなく朝を迎えた。いつもなら５時から６時くらいにはエサを打ち替えるところだが、このところの疲労が重なってまだ眠い。もうちょっと寝よう・・・

６時４５分、１番竿にヒット！３週間ぶりに聞くAbuの軽快なクリック音。いいぞ、いいぞ！眠気を吹き飛ばしてくれた鯉は、霞ヶ浦体型のスリムな７６ｃｍだった。産卵を終えた ばかりなのだろうか、腹部がしぼんで見える。写真を撮ってすぐにリリースする。

地元の年配の方がそばのポンプ小屋に来て運転をはじめる。この方はかつて霞ヶ浦で漁師をしていたが、最近は漁に出ることもなくなったそうだ。作業が終ったころ、いつものように朝の挨拶をする。

霞ヶ浦のことは地元の漁師さんに聞くのが一番である。この方は、７０歳を少し過ぎたくらいだろうか。自分が若かった頃の霞ヶ浦は、２～３メートルの湖底まで透き通って見えるほど水が澄んでいて、魚を簡単に突いて獲ることができたそうである。その頃は弁当を持って舟に乗り込み、一日中漁をしていた。弁当を食べる時は、湖の水をそのまま汲んでご飯にかけて食べたりした。この辺は地下水の水質が悪いため、むしろ霞ヶ浦の水の方が綺麗だったという。湖の護岸工事によって水生植物が姿を消し、そして下流の堰の建設によってますます水質が悪化した。

「今頃になって植物が大事だと気がついて増やし始めているが、きっと元にもどるのに少なくとも３０～４０年はかかるだろうなぁ・・・」

この湖には巨大な鯉がいる。あるとき網を引き上げていると、ずっしりとした重みを感じた。とっさに「土左衛門だ！」と思ったそうである。「いやだな・・・」と思いながらも放っておくわけにもいかないので、仕方なく引き上げるととてつもない大きな鯉が上がってきた。「うろこの大きさはこれくらいあった」と、手で作った輪の大きさは５ｃｍは楽にある。あまりの大きさに「この湖の主に違いない」と思い、その場ですぐに放してやったそうである。今では網を張っても、入ってくる魚はブラックバスとアメリカナマズばかり。この地区の漁

師は同世代の数人しか残っていない。ウナギを獲っても売るほどはない。漁で生計は成り立たないという。
「しかしまぁ、宇都宮からわざわざ鯉を釣りに来てるんかい。でもきっと楽しんだろうな。ま、頑張ってな！」
このポイントに来ると、必ずポンプ小屋の作業が終ってから少し話し込んでいく。気さくな方なので、私もつい聞き入ってしまう。
　この日は結局アタリがなく、いつものように本を読んだり昼寝をしたり気ままに過ごす。夕方は早めに食事の支度にとりかかり、日が沈むころには外で夕食を済ませた。食後のコーヒーを飲み終わった７時頃、３番竿に６１ｃｍ、さらに夜９時半、今度は２番竿に６０ｃｍがヒットした。これで１番から３番竿まで１本ずつアタリが揃ったことになる。今夜は活性が高いと期待したが、その後はパッタリとアタリが途絶え、朝を迎えた。今日もポンプ小屋の作業を終えた漁師さんと挨拶する。気温がどんどん上昇してくる。午前１０時までのゴールデンタイムを待ったが、アタリがないためキッパリと諦めて竿を撤収。

　霞ヶ浦と利根川にそれぞれ入釣した秋田さん、煮込みマッチョさんに携帯で連絡してみる。秋田さんは１本ゲット。マッチョさんはアオウオをゲットとそれぞれ楽しんでいるようだ。９月には皆とオフ会で会えることを祈りつつ、宇都宮に向かって車を走らせた。

ひで＆たまごの子連れ釣行記　2005.5.29　ぼらひで

５月２９日、今日は左たまごさんと荒川で待ち合わせ。以前オフ会を開催した場所で、お互いに息子を連れて会おうと事前打ち合わせ済み。左たまごさんは６時半到着、セッティング完了が７時。私は７時起床（笑）、そのまま着替えて寝ぼけ眼の息子と二人、８時に現地到着。挨拶もそこそこ、隣に竿を出している方に状況を伺いながら竿を出す場所を決める。今日は食パンで草魚を釣りたいと思い、それ用に１本針仕掛けを持って来た。３本のうち、２本はダンゴ＋コーン、１本がパン仕掛けだ。左たまごさんも同じで、お子さんと２本ずつの４本のうちクワセは２本がパン、２本がコーンだ。私のセッティング完了が８時半ころ。

食事をしながら漫画本「ブラックジャックによろしく」を読みいる。結構まじめネタの漫画が好きで、ちなみに先週は「キャプテン」。気に入った漫画が無い時は「本当にあった笑える話」系の漫画を買うことが多い。「本当に・・・」系の漫画を読んでいて思わず吹き出してしまったり、ニヤニヤしていると散歩をしている方たちの冷たい視線が・・・（笑）それから次号が発売になる時をちゃんと覚えていて釣りに行かないとなんとなく罪悪感が・・・、イカンイカン話が大分それた（大笑）漫画を読んでいるとたまごさんと息子さん、

我が息子が「釣れてるよぉ～！」と叫びながら走ってくる！たまごさんの２番竿にヒットだ。慎重にタモいれし、６５ｃｍゲットでとりあえず安心しましたです。

一時間後、またまた左たまごさんにヒット！しかし、あっと思った瞬間ばれる。仕掛けを上げてみると針が見事に伸ばされていた。ん～残念！子供達は仲良く遊びだし、結構楽しそう。先週は管理人殿の息子さん、今週は左たまごさんの息子さんと仲良く遊べて我が子も満足の様子。左たまごさんの息子さんは泥だらけになりながら子ハゼ等を採ってきた。

水も大分引いてきて、かなり水深が浅くなってきたところ、ウナギがよろよろと泳いでいた。玉網で簡単に掬える位弱っていた。朝から気になっていたのだが、やけに魚の死骸が多い。今頃の時期鯉やニゴイなどはよく死骸を見るが、驚いたことにウナギが５ｍ間隔位で結構死んでいる。長いこと荒川で釣りしているが、こんなにウナギが死んでいるのをはじめて見ました。何か大変なことが起きなきゃいいなぁ・・・とマジで思いました。そういやぁ、地震雲が出ていたので関東にＭ７クラスの地震が来るってウワサはどうなったんでしょうか？？？　さて、そんなことをしているうちにまたまた左たまごさんにヒット！今度は先ほどより若干サイズＵＰの７０ｃｍ弱。私が釣れないので我が息子を一緒に記念撮影！と思ったら魚がはとや状態（笑）もう一枚撮り直し！その後今度は左たまごさんの息子さんがお父さんを撮影。

時間は１４：３０、かなり水が引いてしまったので今日はこれでお終い。４人で記念撮影をし、子供達は又会う約束をしてそれぞれの家路へと・・・。

私は残念ながら釣れませんでしたが、楽しい一日・・・いや半日でした。お終い。

子連れ鯉師、荒川に行く　2005.5.21　mi○

今週は小学二年になった次男のコウを連れて、ベストシーズンを迎えた荒川にお邪魔した。日頃息子と遊ぶ時間が思うように取れないため、たまには丸一日一緒に過ごす日があってもいいだろう。思えばこの子が生まれた年に、長男のカズを連れて釣りをはじめたのが鯉釣りのきっかけであった。次男の年の数が私の鯉釣り歴と同じである。今回もホスト役はひでさん。ポイントはひでさんが知り尽くしているいつもの場所である。

７時半頃ポイントに到着。ひでさんは竿を３本セットし、私とコウはそれぞれ２本ずつ合わせて４本セットした。餌を投入して約３０分後、幸先よくひでさんの穂先が深く入る。しばらくやりとりするが、なかなか鯉は浮いてこない。上流に向かって走ったかと思うと一転して下流に向かったりする。この引きが川鯉の最大の魅力である。力尽きて浮いた鯉は美しい魚体の７０ｃｍの鯉だった。さすが地元の鯉師、ひでさんである。まずは手堅くゲット。

さらに１時間ちょっと経過して、私の穂先がフワフワしている。様子を見ていると糸がダランとふける。次の瞬間下流に向かっていきなり走り出した。すかさず竿を手に取る。スピニングのスプールを押さえながらあわせようとした瞬間、ちょうど再び激しく走り出し、ミチ

イトを強く引き出した。「あっちーぃ！ヤケドしたーぁ！」スプールに触れていた右手の指先が、摩擦で熱くなってしまった。地を這うような重量感のある鯉も魅力だが、やはりこうして激しくミチイトを引き出す川鯉に鯉釣りの醍醐味を感じる。今回は水郷釣行で使ういつもの石鯛竿ではなく、スピニング用の中級クラスの竿を使っている。竿のしなりもピークに達し、最高の気分。ふと見ると息子に鯉をすくわせようと、ひでさんがタモを持って息子と横に来ていた。沈めたタモにそっと鯉を引き入れ、無事にネットイン。息子よ、それを持ち上げるのはまだ無理だ。それにしてもここの鯉は、どれもサイズの割には重いなぁ。息子と一緒に記念撮影。最高の引きで楽しませてくれた７８ｃｍの鯉であった。

さらに午前中に７０ｃｍ近い鯉を２本、ひでさんが続けてゲット。並べた３本の竿にそれぞれ１本ずつ当てる芸当を披露してくれた。ん～、ただ単に釣るだけじゃない。大道芸のような見せる釣りに、ただただ感心するばかりである。この人はもしかしたら荒川の鯉とお話ができるほど仲良しなのかもしれない。

晴天の中、昼を１時間程過ぎた時、ついにコウの穂先が入った！午前中は持ってきたトランプで私と遊んだ後マンガを読んで暇を潰し、さらにしばらくひでさんにオセロと将棋で遊んでもらったコウである。

すっかり「ひでおじちゃん」が大好きになったところで待望のアタリ。長さ３．３ｍのグラスロッドが大きくしなる。時々のされそうになるが、しっかり又にはさんで渾身の力で竿を持ち、リールのハンドルをぎこちなく必死で回す。コウがバテルか鯉がバテルか？私はタモを持ち浮き上がった鯉をすかさずすくい取った。やったー！こんな大きな鯉は持てないので、地面に置いたまま記念撮影。６２ｃｍの傷ひとつない鯉であった。ひでおじちゃんに感想を聞かれたところ「物足りない・・・」コメントだけは一人前である。それでもこんなに重い鯉を釣ったのははじめてである。竿がグラス ファイバー製であったのも幸いした。張りのある竿は子供には扱えない。長男のカズも小学二年の時にこの竿で７０オーバーをあげている思い出の竿である。

この調子だと、今日はバンバン釣れ続けるかと期待したが、予想に反してこの後パッタリとアタリが止まってしまった。３時前、学校を終えたひでさんの息子さんの雄くんが、お父さんの追加の餌を持って釣り場に到着。せっかく重い餌を持って来てくれたのにゴメン。アタリがなくて使わないでしまった。ユウくんとコウはちょっとすると二

人でお話をはじめ、次第に鬼ごっこみたいに駆け出したりして楽しく遊びだした。結構気が合ってるようで、コウは汗だくになりながら遊びに夢中になった。

楽しい時間もあっという間に過ぎて、区役所の６時を知らせる放送が河川敷に鳴り響く。「６時になりました。外で遊んでいる子供はお家へ帰りましょう。」そうか、帰らなくっちゃ（笑）　竿を畳んで荒川を後にした。３人で５本の釣果はまずまずの出来。私は鯉 の引きを堪能し、コウはひとりで鯉と格闘し、子連れ鯉師は大いに満足。今回も一日相手をしてくれたひでさんとユウくんに深く感謝します。またここに釣りに来るからネ！

爆笑！南方宙釣りの構え 2004.10.23～24 煮込みマッチョ

第一章　新潟大地震

１０月２３日。台風２３号の影響で利根川はまたしても河川敷が冠水し立ち入りは不可能ということで、釣り場を北浦に変更。北浦も増水していて護岸のテラスは完全に水没していたが、杭などのストラクチャーを目印にやれば釣れるはずだと思い込んで入釣した。

さすがにメッカだけあり、これだと思われるポイントにはことごとく先行者がいた。後で中ソンさんから聞いたところによれば連盟の大会だったらしい。しかし霞ヶ浦や北浦というと、どうもあまりいい思い出がない。去年の２月に霞ヶ浦に行ったときは沈めてあるロープに気付かず百発百中の根がかりで挙げ句に大雨に降られて続行不能。今年９月の北浦でのオフ会では花粉症に悩まされ、ダンゴを併用したにもかかわらず釣果ゼロ。自分の中では霞・北浦は釣れないというジンクスができ始めていた。

今回も出だしから躓いた。底を探ろうと投げた錘が早くも杭かロープに引っかかる。まだ夜明け前でヘッドランプも暗くてよく見えない。最近鳥目なのか夜間の視界が極端に悪くなった気がする。不摂生が祟っているのか？夜が明けてやっとセッティングが終わりエサを付けていざ投げると、最後の一本がまた根がかり。…イライラする。ぶつくさ言いながらどうにか６本投げ終えた。

こうして出鼻をくじかれすっかりペースが乱れ、アタリがないまま釣瓶落としの秋の夕暮れ。寒いので車内で丸くなっていると、何だか

グラグラ揺れる。グラグラがユッサユッサとなる。地震だ。車中泊をしているとよく地震に気付くが、今回はやけに長い。計った訳ではないが揺れ始めから２分以上続いたのではないか？。クルマは揺れ易い構造をしているとはいえ震度は３以上あるはずだ。ラジオをつけると新潟で大地震とのこと。時間が経つにつれて大変な災害になったことがわかった。群馬も滅多にない震度４とのことでなかなかつながらない電話で自宅の両親に無事を確認した。余震と思われる揺れがその後も続き、結局朝までセンサーは鳴らなかった。

第二章　買いに行こう！

翌２４日になると水がかなり引いてテラスが見えてきたので、浮き釣りをすることにした。北浦では浮き釣りが面白いことがオフ会でわかっていたので、こうなったらぶっ込みで釣れない分を釣ってやる、と思った。餌を練ってイスをテラスの先まで持っていき３．６ｍの延べザオを出す。

早速浮きが消し込まれたので素早く合わせる。釣れない鬱憤が溜まっていたので反応がいい。キューンと糸鳴りがして立てた竿が凄い力で倒された。プツッという感触とともに竿が真っ直ぐになる。切られた。仕掛けを上げてみと３号のハリスが切れていた。

針を付け変えようとしているとセンサーが鳴った。４番の竿だ。だが穂先は風で小さく揺れているだけだ。空アタリ。それも魚が引いた

のかどうかも怪しい気がした。送信機のスイッチを元に戻すとすぐに浮き釣りに戻る。いよいよぶっ込みでは釣れる気がしない。

「もう浮き釣りに賭けよう。とにかく一本は上げたい。それが鯉でもアオでもレンギョでもソウギョでも、はたまたナマズでもカメでも何でもいい。」

今思えば自分の中で何かスイッチが入ってしまった感じだった。針を付け替え入念に餌付けし、仕掛けを送り込んだ。するとすぐに消し込み！今度はもっと凄い力だ！竿を立てる間もなくあっと言う間に走られ、今度は４号の道糸が切られてしまった。なんだ、魚、いるじゃないか！

　それにしても悔しいと言ったらない。二回連続で切られたのだ。しかもあんな引きをする魚がなぜぶっ込みの竿に来ないのか？鯉だとしたら北浦の鯉はタニシよりも練り餌を好むのか？寄せるための餌打ちを繰り返すこともなく簡単に当たりが出るところを見ると少なくともこのポイントには相当な数の魚が集まっていると思われた。これで釣れないのはどうしても納得がいかない。しかし、もうヘラ浮きがない。これでは浮き釣りができないではないか。このまま何も釣れずに帰れというのか？

「買いに行こう！」

北浦に詳しいmi〇さんにメールで近くに釣り具屋さんがないか聞いてみたが、ないとのつれない返事。だがまわりを見渡すと１キロくらい先に赤い幟と白地に青の看板が見える。きっとあの赤い幟には白抜

きの文字で「つりえさ」と書いてあり、白地に青の看板は某メーカーのものに違いない！な～んだ、すぐそこにあるじゃないか！早速クルマを走らせるとすぐにそれが全然違うことが判明した。クリーニング店だった…

仕方なくそこから１０キロほど走ると幸運なことに釣り具屋さんが見つかった。この店で安いヘラ浮きと板錘、道糸にとナイロンの７号、それに４号ハリスの鯉針を買い、大急ぎで釣り場へ戻る。暗くなるのが早いので浮き釣りができるのはあとせいぜい二時間だ。仕掛けを切られたりして時間をロスしたくない。

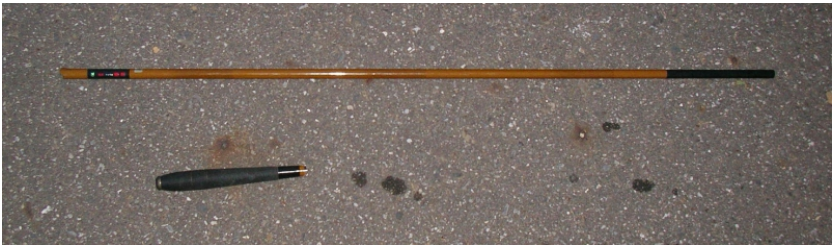
第三章　漂う竿

焦っていた。７号の道糸を竿に結んで仕掛けを作った。小型のスイベルがなかったのでいつもぶっ込みに使っている大型のスイベルを流用したらそれでヘラ浮きが丁度良い加減で立ったので板錘は不要だった。

餌を付けて振り込むと早くも浮きが消し込んだ。ぶっ込みとはえらい違いの活気だ。すかさず合わせて竿を立てるとキューンと糸鳴りしながら大きくしなる。次の瞬間、またしても強烈な力で沖へ走ろうとする。しかし今度は７号だ。切れるものなら切ってみろと思った。確かに今までよりは長持ちしている。さすがに切れないだろう。相手は凄い力でなおも引張る。左手だけでは持ちこたえられないので右手を添えて必死に耐える。その時だった。

「パーンッ！！！」

乾いた破裂音が辺りに響き渡った。左手の人差し指の付け根に何かに弾かれたような衝撃と軽い痛みを感じた。



「あっ！」　思わず声が出る。竿が折れたのだ！！

手元には黒い糸を巻いたグリップ部分しか残っていない。最初の継ぎ目までの部分はコンクリートのテラスの上にカランという音を立てて落ちた。そこから先の部分は５メートルほど先の水面に漂っていた。よく見るとユラユラとジグザグに泳いでいる。まだ魚が付いているらしかった。しかしどうすることもできずにただ見つめるだけ。沖に向かってゆっくりと進んで行き、やがて見えなくなった。物凄いパワーだった。あの糸の先に食いついた奴は何だ？鯉か？アオ？・・・まさか！！軽い痛みが残る人差し指の付け根に目をやるとご丁寧に出血していた。だがそんなことに構っている余裕はない。しかし竿を失ってしまった以上どうすることもできないではないか。

　その時、昨日の朝からセットされずっと沈黙を守っている６本のリール竿が視界の隅に入った。

第四章　爆笑！南方宙釣りの構え

「あれしかないな・・・」

「釣りモード全開」とはこのことであろう。ただただ釣ることしか頭になかった。もうバランスなど考える余地はない。竿はまだ６本あるのだ。とは言っても浮き釣りなので瞬間的なアワセを考えるとなるべく軽いほうがいい。迷わずこの中でも一番小さいアブ７０００が付いている竿を選んだ。これで浮き釣りをする。竿はもちろんダイワのメーター倶楽部巨鯉ＨＨだ。道糸は堂々たる１６号。改めて太いと感じる。これにMサイズ（と書いてある）浮きゴムを通し、更にヘラ浮きを装着する。言うまでもなく浮きゴムははちきれんばかりになる。スイベルは同じく大型のもの。ここから下は先ほどまでと同じ４号ハリスの鯉針。もどかしい気持ちを抑えつつ仕掛けを作って勝負の再開だ。ここで断っておくと浮き釣りと言ってもヘラ師の人が使うような竿受けなどは持っていない。竿はずっと手持ちだ。３．６ｍの延べ竿はこれでもよかった。しかしメーター倶楽部は重い。ずっと持っているとかなり疲れてくる。素早いアワセなど無理だ。

ここである写真が頭に浮かんだ。それはイシダイ釣りの本で見た南方宙釣りの構えだ。あの構えなら素早くアワセられる。しかしここはゴツゴツした荒磯ではない。北浦のフラットなコンクリート護岸だ。周りは「置き竿釣法」の鯉師ばかりが大挙している北浦。考えてみたらかなり恥ずかしい。ちょっとだけ構えてみたが、まるでライフル銃で獲物を狙っているようだ。それにこの竿の持ち方は結構疲れる。肩

がやたらと張ってくる。うろ覚えなのでたぶん自分の構え方がおかしいのだろう。これなら先ほどまでと同じように普通にイスに腰掛け竿をひざの上に乗せるような形で持っているほうがまだいい。

　そんな試行錯誤をしているうちに浮きが消し込まれた。すかさずアワセるとブルブルッという感触。あの竿をへし折った奴とは違う感触だ。簡単に寄ってきたのはニゴイだった。

「お前じゃない！！」と思いつつちょっと嬉しい。

ニゴイを２本連続で釣り、何度かアワセに失敗した後また浮きが消し込まれた。うまくアワセた。グンッという力強い引きで一気に沖へ走った。道糸が１６号といってもハリスは４号だ。無理はできない。確実に釣りたいのでリールのドラッグを緩めてしっかりやり取りする。メーター倶楽部がいい感じに撓る。この感覚を待っていた！！沖で左右に走った後少し寄ってきて今度は手前の杭に逃げ込む。湖に向かって左手に苔むしたコンクリートの杭、右手にはボロボロに腐った木の杭が何本も打ち込んである。その中に突っ込んで行き道糸を絡めようとするが、岸から何メートルでもないので難なくかわす。やがて姿を現したのは金色の鱗だった。鯉だ。いつもタニシ採りに使っている上州屋で９８０円の四角い網で掬った。４０センチそこそこのサイズだったがとりあえず鯉が釣れた。

しかしあの竿をへし折った奴はこんなものではないだろう。そう思うと欲が出る。写真を撮って更に続けるとまたアタリ。今度はもう少しパワーがある。ずっとアタリのなかったメーター倶楽部がいきいきしている、ように見えた。ドラッグを緩めたスプールから糸を引きずり出され、巻く。それを何度か繰り返し、網に収まったのは先ほどよりサイズアップした鯉だった。５０センチくらいだろうか。何とも言えない達成感があった。

ここで練り餌が終わったので終了。辺りは薄暗くなっていた。やるだけのことはやった。北浦はどうも釣れる気がしない。だが浮き釣りは別だ。たまたまそういう時合いだったのかもしれないが、本当にうまい人がやれば一日で１００本は釣れるのではないか？

現場からｍｉ〇さんにメールで言った。「北浦＝浮き釣りというイメージが定着しそうです」と。完全にそうなってしまった。これから竿受けも揃え、浮き釣り用の竿も新調し通う、かどうかはわからない。なにしろ自分にとってメインは利根川での釣りだから。

ただ、ひとつだけ言える。本当に面白かった。そして、改めて自分は心底釣りが好きなんだと思った。

夢にまで見た青魚　2004.9.25～26　煮込みマッチョ

利根川到着時から北東の風が吹き霧雨が降ったり止んだりの天気で、いかにもという雰囲気だったが、一日目の朝に60cm台の鯉が来てからというもの空アタリすらなく、夜中のコマセ撒きもサボったまま寝込んでしまい、二日目の朝四時頃ザーッという強い雨の音で目が覚めた。

結局夜中も全くアタリがなく、７月からこんな状態を何度経験しただろう、と思ったら体の力が抜けた。今年はもう終わりかなあ？とも思った。前日からこんな天気にもかかわらず寒さは感じなかったが、寝起きの体温が下がりきった状態で外へ出るのは億劫になる。そしてまたウトウト…

突然センサーのメロディと声に叩き起こされた。１番の竿だ。時計を見ると６時２１分。車内に鳴り響くメロディの隙間から、微かにギーッというリールのクリック音も聞こえてくる。空アタリではない！慌ててスパイクブーツを履いて外に飛び出す。玉網を取りに行っている間もクリック音が鳴りっぱなしで止まらない。その間何十秒でもないはずだがやっとのことで竿にたどり着いた時に見たスプールの細さに愕然とし、また恐怖さえ感じた。100mは走られている。

もしや！？と思ったと同時に竿をひっつかんでスプールを押さえながら大アワセをくれる。ガツンという重量感で竿が立てられない。この重さは鯉ではないことはすぐにわかった。

道糸を少し出しながら竿を立てクリックをオフにして巻き始めたが、この時初めてパワーハンドルの必要性を実感した。石突きをヘソの下

に押しつけ左手で竿を支え、右手でリールのハンドルを必死に回した。とにかく寄せなければ！頭の中を「早く巻き上げろ！」という思いが駆け巡る。雨に濡れた竿は滑りやすく、握る左手には余計に力が入り前腕はたちまちパンパンに張ってきた。まだ姿を見せない相手は強烈なパワーで何度も沖へ走ろうとするので16号を使っていてもつい道糸を出してしまう。

それでも何とか手前まで来たようだがまだ姿を見せずまた竿をのされそうになり沖へ走ろうとする。ここで竿を支えている左手をリールよりも元ガイドに近い所に持ち直した。これで少しは楽に竿が立てられるようになったが、石突きはますます腹に食い込んで痛い。これも大物釣りの醍醐味とばかりにグイッと竿を引きつけた。するとようやく相手が浮き上がった。

真っ黒だ！！どんよりした空を映す水面に現れた魚体は本当に真っ黒に見えた。青魚だ。正真正銘の青魚だ！

ここから今度は「バラすなよ！」という思いが頭をよぎる。バラしたらこれまでの全てが水の泡になる気がした。去年の五月から真冬を除いて毎週のようにこの場所に通い続け一年四ヶ月、この瞬間のために積み重ねた全てを無駄にしたくなかった。何より、ずっとお世話になりっぱなしだった師匠にこれでやっとひとつの恩返しができる！そんな思いが一気にこみ上げた。

姿を見せた青魚はなおも抵抗する。幸いなことに鯉のように左右に走り回るようなことがあまりなく、専ら岸と沖の往復の繰り返しだ。それがわかったら少し落ち着きを取り戻し右手に玉網を持ったが、左手が限界だった。相変わらず石突きが腹に食い込んで痛い。メーターオーバーの魚とのやり取りに慣れていない身は余分な力を使いすぎた。立てていた竿がまた寝てくる。仕方がないので腰を落とし両手で竿を持ち思わず「おい！頼む！こっち来てくれ！」と叫んでしまった。

　そこへ昨夜からセイゴ釣りに来ていた顔なじみのおじさんが見物にやってきたので、玉網入れをお願いし、最後の力を振り絞って網に引きずり入れた。「やったあ！！」自然に言葉が出てしまう。待ちに待った瞬間だった。

　陸に上げて師匠の車に飛んで行き報告した。まだ寝ていた師匠は正に飛び起きて二人で青魚に駆け寄った。「よかったなあ！」と師匠が声をかけてくれた。涙が出そうになった。

計測台は持っていないのでそのままメジャーを当てると128cm。小振りだが生まれて初めて釣った青魚だ。「師匠、ありがとうございます！」万感を込めて私は師匠にお礼を言った。それ以外のうまい言葉が見つからなかった。

　そして待望の儀式だ。推定で２０キロ台後半から３０キロ弱だったろう。持ち上げられない重さではないが何しろ腕が疲れてい

たのと物凄いヌメリでうまく抱き上げられない。ここでまた悪戦苦闘したが何とか師匠に数枚の写真に納めてもらった。やはり重かった。どうしてもこの腕に抱きたかった巨大魚。夢にまで見た青魚。

直後にリリース。青魚はゆっくりと泳ぎだして行った。

玉網入れをしてくれたおじさんにもお礼を言って全ての竿を打ち直してコマセを撒き、やっとひと段落ついてからもうひとつの儀式が待っていた。メモ帳に釣果を記入するのだ。

「６：２１　①　　アオウオ　１２８ｃｍ」

このメモ帳に「アオウオ」という文字を書き込む瞬間。まだ興奮が治まらず手が震えてうまく書けなかった。サイズは二の次。とにかく最初の青魚を釣った喜びが全身を突き抜けた。

これでますますこの釣りから抜け出せなくなった。そして少しだけ、青魚という魚が自分にとって身近な存在になった。あの青魚は私のヘソの下あたりに竿の石突で圧迫された痛みと、左の前腕に筋肉痛を残した。

カズの２年ぶり釣行　2004.5.15　mi○

先週に引き続き、地元での釣行となった。今回は一昨年の秋のオフ会以来釣りから遠ざかっていたカズが同行し、さらに先週３匹釣り上げて気をよくしているコウとの親子３人釣行である。「釣りにも付き合わないなんて、この親不孝者！」などとわけの分からない論理を振りかざして、日頃私以上に忙しく過ごしている中学２年のカズを連れだし、初めての３人釣行は果たしてどんなことに・・・

お昼頃自宅を出発し、途中のコンビニでおにぎりとジュースを買い込んで現地到着。今日も釣り人は誰も入っておらず、我が家の貸しきり状態。それじゃあということで遠慮なく竿を出させてもらい、下流からコウ、カズ、mi○の順に並ぶことにした。１時頃セット終了し、遅めの昼食となる。すぐそばの日陰でミニテーブルを出して楽しく食事。釣りと言うよりもピクニック気分で子供達も嬉しそう。

最初のアタリはmi○にあったが、残念ながらやり取りの途中でスッポ抜け！次に来たのがカズ。「２年ぶりだからだいじょうぶかなぁ・・・」と出発前に不安がっていた鯉とのやり取りも特に

問題なくスムーズに寄せ、mi○がタモ入れ。６０ｃｍの綺麗な魚体にカズも大喜び。お兄ちゃんが鯉を持って撮影しているのを見て、コウは自分も鯉を持つと言い出す。しかし落とされる鯉がかわいそうなので、仕方なく地面においてお兄ちゃんと一緒に記念写真。

次のアタリは mi○で６５ｃｍ。さらに今度はコウの竿に５７ｃｍ。これでやっと二人の息子に来たので安心して釣りができる（笑）息子達と一緒だと、彼らが釣るまで落ち着いて釣りができない。親バカである・・・　さらにアタリは続く。今度はカズに５９ｃｍ。さらに mi○のリールから勢いよく糸が出るアタリはまたまた途中でスッポ抜け！

デリカに乗った初対面の鯉師がやってきて、しばらく歓談する。アユで有名な宇都宮の川がホームエリアなのだそうだが、今年は鯉がイマイチとのこと。ＫＨＶの影響かと心配のようすであった。その間息子達は楽しく寄せダンゴ作り。特に小学１年生のコウは、泥遊びの感覚でダンゴ作りが大好き。おかげで私は楽チン、楽チン。

そのダンゴ作りの最中にコウの竿にヒット！隣の竿に少し糸が絡んだりしながらも無事に一人でリールを巻いて５０ｃｍ弱をゲット。子供の上達は早いものである。この鯉をリリースしている最中に、今度はカズの竿にヒット。リリースし終わった mi○はそのま

まタモを持って岸でカズの寄せを待つ。今日一番の走りを見せる鯉だったが、無事にネットイン。傷ひとつない綺麗な６７ｃｍの鯉だった。

先ほどまで暑いくらいの日差しだったが、曇りにかわって急に雨を予感させる風が吹き始めた。エサの打ち込みはもうやめ、３人で楽しく片付け。ほぼ終わりに近づいた頃、カミサンから「遅いぞ～っ！」の電話。夕方用事があるからと４時半に帰る約束をして家を出たが、時計を見るとすでに５時。急いで車に乗り込み帰路に着いた。

はじめて３人で釣りに来て、結局カズが３匹、コウが２匹、そしてmi〇は１匹と３時間半程の釣行としては大満足な結果となった。カズの「来てよかった～！」という言葉がとても嬉しく思った。

親子で釣りに　2004.5.8　mi○

ＧＷ中に一緒に釣りに行きたいと言っていた息子のコウ君をほっといて自分だけ利根川に行ってしまった罪滅ぼしに、今日は親子で地元の川へ行った。通いなれたポイントに行ってみると、珍しく釣り人が入っていない。迷わず橋の上流に車をとめる。

息子と私はそれぞれ竿を２本ずつ出し、息子の分は橋脚と吐き出しとテトラに囲まれた最高のポイントにエサを投入し、私はテトラの上流に。センサーはもちろん鈴で、仕掛けは袋付き一本バリにコーンのクワセ。セット終了したのが午後２時。天気も穏やかで絶好の釣り日和。息子は川原でアリの巣を見つけたり、草を摘んでは私にそっと近づいて草でコチョコチョしたりと絶えず遊びを見つける。

一時間半ほど経過した時、息子の鈴がチリチリーン！去年は竿を手にしたとたんに鯉に負けてすっ転んだが、今年は無事に竿を取ってリ

ールを巻き始める。手前まで寄せたのを確認して私はタモを持って岸ですくいあげる。傷のない綺麗な６５ｃｍの鯉だった。偶然その光景を見ていた自転車のおじいさんに、「すみませんが写真撮

っていただけませんか？」とお願いしたところ、「カメラ撮ったことないけど・・・」といいながらも快くシャッターを切ってくださった。本当に有難うございます。

エサを投入し直して車でくつろぎ、一時間ほどした時またまた息子の同じ竿がチリチリーン！さっきより元気な引きの６０ｃｍの鯉だった。二匹釣ったのは初めての息子は、家にいるママと田舎のおじいちゃんに早速電話で喜びを伝える。さらに一時間ほどすると、またまた同じ竿がチリチリーン！もうリールを巻く手もだいぶ慣れ、スムーズに鯉を寄せられるようになってきたが、私がタモを持って岸に降りようとしたとき、息子がいきなり「チン○いたい、チン○いたい！」　竿尻を股に挟んでリールを巻いているので、今回は当たり所が悪かったらしい。大事なオチ○△ンがつぶれては大変と、私も思わず「ずらせ、ずらせ！」（笑）　無事にずらして再開し、三匹目をネットイン。５５ｃｍの鯉だった。

５時半を回ったところで後片付け開始。息子も手伝えるところはできるだけ二人で一緒にやる。ボウズの私を多少気遣う余裕を見せる息子に成長を感じ、嬉しく思う親バカ釣行記でした。

コウ君デビュー戦　2003.6.22　mi○

今日は午前中の用事を済ませ、午後から地元の川での釣行になった。昼食を食べたあとすぐに出かけるつもりが、不覚にも眠気に襲われ２時まで昼寝。慌てる必要もないからまぁいいか！

今日は小さな相棒と一緒に釣りをすることになった。次男のコウで、幼稚園の年長さんである。長男のカズは中学に入学以来、なかなか私と遊んでくれない。コウは今日が鯉釣りデビュー戦。行く前に３つの約束をした。「川では勝手にあっちこっち行かないこと」「途中で帰りたいと言わないこと」「もし釣れなくても泣かないこと」

２時半に現地到着。コウの竿を一番のポイントにセット。穂先には懐かしい鈴をつけた。何年ぶりだろう？よくまあ鈴が残っていたものだ。「さて、次に自分の竿でも出すか・・・」と思ったとたん、「ありゃ？リールがない！」子供のタックルをそろえる事に気をとられ、自分のリールを持って行くのを忘れてしまった。しぶしぶ自宅に戻り再び川へ。往復しても１５分くらいなので、こんな時は救われる。

私の竿を２本セットし、しばらく二人で話をして過ごす。一匹目は３時半mi〇にヒット。４２センチのかわいい鯉だった。次にコウの竿に待望のアタリ！鈴の音が川に鳴り響く。すかさず家で教わったとおり左手に竿を持ち、右手で一生懸命リールを巻く。竿の少し上を私が持ってアシストしてあげないと引きずり込まれそう。鯉は元気に逃げ回り、渾身の力でリールを巻く！　と、フッと糸がたるんで軽くなった。痛恨のバラシ。コウは悔しさよりも、今起こった出来事の興奮がまだ冷めないようす。きっとまた釣れるさ・・・

４時半頃、BBさんがいつものようにやってきた。コウはBBさんと初対面で「こんにちは！」１時間ほどBBさんと話し込んだ時、コウの鈴が元気に鳴り響く。今度はバレるなよーっ！竿掛けから一人で竿を抜いたコウは、いきなり竿を鯉に引かれ、勢いでスッ転んでしまう。mi〇が竿を持って立ち上がらせ、再び戦闘開始。岸よりまで寄せたところで、竿のアシストをBBさんにお願いし、mi〇はタモで取り込みへ。絶対に取り逃がせないプレッシャーの中、BBさんのアシストのおかげもあって無事にネットイン。サイズは４５センチながら、二人にとってこれ以上の喜びはない。BBさんにカメラをお願いし、二人で鯉を持ってハイ、ポーズ！こんなに大きな生きた魚を手にするのは初めての感想は「ヌルヌルしてて、口を大きくあけてた！」だそうです。

思えば最近の私は、鯉を釣る喜びがかつてより少しずつ薄れてきたように思える。川に着いただけで高鳴る鼓動、初めて釣った鯉を手にしたときの喜び・・・それがいつの日からか当たり前のように川原に竿をセットし、そして淡々と鯉を釣り上げるようになっていた。一匹の鯉を釣り上げて大喜びする息子の姿に、忘れかけていたものを再び思い起させてもらったような気がする。今日はここ数年味わったことのない充実感に浸りながら家路についた。自宅に到着したとき、ふと後の座席を見るとスヤスヤと眠る息子の姿があった

いつになったら　2002.9.6～8　mi○

金曜の夜。久々の北浦。前日から入念に準備を進めてきたつもりだが、出発を前に何度となく道具をチェックする。毎度のことだが、鯉釣り道具の多さには呆れてしまう。7時過ぎに出発したものの、自宅から１０分以上走ったところで「いっけねぇー」と忘れものに気が付いた。はやる気持ちを抑えながらしかたなくUターンし、再び出発したときにはすでに８時近くになっていた。最近、地元釣行ではつまらないと言って付き合ってくれなくなった息子のカズだが、北浦ならということで今回は付き合ってくれることになった。予報通り今日は雨。現地に到着するころに雨があがることを祈った。

１０時過ぎ、目的のポイントより手前から湖岸に入る。主要ポイントにはすでにきっちりと車が止まっている。竿やピトンに貼りつけられた反射テープの列が、車のヘッドライトに鮮やかに浮かび、それぞれの個性が暗闇の中で輝きを放つ。相変わらず雨は降り続いている。もうすぐ今回目指すポイントである。目印の大きな水門が近づいてきた。水門の正面には道路を挟んで車が数台ほど駐車できるスペースがつくられていて、そこに静かに車をとめた。後の席に座っている息子に聞いた。「水門のどっちがいい？」「それじゃぁ右に入る」　水門を挟んで二人でそれぞれ竿を出すことにした。

竿を出してエサ打ちをする間、雨はさらに強く降り続いた。合羽を通して次第に雨がしみ込んでくるとともに、体じゅうに汗をかいてすっかりびしょ濡れになっている。やっと車に落ち着いたのが１１時半

頃。すぐに着替えを済ましてシュラフに横たわった。こんな夜は、正直いってセンサーは鳴らないで欲しいなぁなどと思ったが、幸か不幸か実際一度もなることなく一夜を過ごした。

土曜日朝。天気は曇り。外に出て自転車で湖岸線を走ってみる。下流の方は鯉師の姿は少なく、対岸も同様に車が少ない。上流側の隣には那珂川巨鯉会のAB氏が入釣している。戻ってみると、ちょうど息子が眠そうな顔で外に出てきた。エサの打ち返しをして、二人で軽い朝食をとった。時々雨が降り出す。午前中に一度私に空アタリがあっただけで時間が経過した。昼頃になって、平石さんがやってきて少し下流に竿を出す。今夜は秋田さんも来る予定になっている。

昼食後、2時過ぎまで二人で昼寝。今日は涼しくぐっすり寝てしまったが、この間にセンサーが入ることはなかった。なんとなくいやな予感がする。夕方、平石さんと一緒に少し離れたコンビニに夕飯を買いに行く。戻って、平石さんの車内で食事をとらせてもらった。ワンボックスを改造した車内はすこぶる快適である。雨の弱まるのを待って自転車で自分の車に戻りエサ打ちをした後、テレビを見て過ごす。

８時４５分。待望のセンサーが！息子の水門寄りの竿のセンサーが入っている。私はタモを手に駆け寄り、鯉が浮きあがるのを待つ。息

子はこれまで何度か北浦に挑戦してきたが、ことごとくボウズに終わっている。何とかばらさないで取り込んでやりたい。やがて暗い水面に鯉が浮きあがり、無事タモにおさまった。カズの北浦での初鯉である。サイズ以上の喜びがカズの顔に浮かんだ。

翌朝、昨夜の鯉を持って記念撮影。結局今回の釣果はこの一本のみ。昼頃、下流側に入釣していたK島氏、BB氏らが納竿した模様。またしても私は釣果に恵まれなかった。いったいいつになったら納得できる釣果がでるんだろうか？あせらずに北浦に通う事にしよう。そしてこのポイントにまたいつか挑戦しよう。

久しぶりに釣れました　2002.8.17　ぼらひで

今日は朝から涼しい。久しぶりに竿でも出してみるかと準備を始める。なんと一番肝心なエサが無いのであわてて買いに行く。買ったエサはダイワさんの川スペシャル。私はこのエサが大好きで、量もちょうど良いので基本的にはいつも単品で使っている。荒川ではダンゴ付きの喰わせ２本針仕掛けでやることが多いので、寄せエサは極端な話何でも良いと思っていて、喰わせエサに準じたものを混ぜる位しかしない。今日の喰わせエサはコーンなので缶詰の半分くらいを汁と共に混ぜて使うことにする。

母娘で外出の為、息子の子守を頼まれた。昼食を済ませてから出発し、いつもの場所に３本セット完了。時間は午後２時１３分、３番竿の前には目印の旗がある。この先からかけ上がりになっているが、この旗の根元目指してエサ打ちする。

実は今日はリールのテストを兼ねている。春先から巨鯉リールを試しているが、未だ魚が掛かってからのテストが出来ていない（笑）。それにどうもハンドルの大きさが気に入らない。ハンドルを巻いた感じと糸巻き量が合わないような気がしてならない。持ち運びの事も考えて、１番リールのみ小さいハンドルに変えてみた。見た目はなかなか良い感じだが魚が

かかってからどうなるか？上手い具合に１番竿に魚がかかってくれればいいのだが、何かを変えたり、新しい道具を使うと必ずスカを喰らう・・・。特に玉網を新調した時は長いスランプに陥る。釣りたいという殺気が表に出すぎるのだろうか？（笑）

今日の喰わせエサである缶詰コーンにはこだわりがあり、このホクレンの北海道コーンが一番好きだ。粒も大きく、汁も沢山入っている。ある時期になると必ず近所の店で一缶１００円で販売するので、それを箱で購入している。一箱・２０缶で大体ワンシーズン分だ。今年はこれが最後の一缶なので、来週からはどうしようかなぁ？？？

息子と遊んでいるとクリック音、なんと無く来るんじゃないかと思っていた３番竿だ！実はセンサーの受信機が壊れていたのでセンサー無しでやった。あわてて竿の元に走り竿を取る。おお！久しぶりの感触だ、でもそんなに大きくないのが手ごたえでわかる。無事取り込め、７０ｃｍの枠より小さい６５ｃｍだが久しぶりの鯉なので笑みがこぼれる。

エサを同じ旗の根元に打ち、勝利のお茶（笑）を飲む。２０分後、またクリック音、なんとまた３番竿だ！先ほどエサ打ちしてからわずか２０分、今日はこの竿が当たり竿のようだ。竿がしなっているところを写真に撮ってから竿を持つ。さっきより良い手ごたえで、７３ｃｍだった。この時点でかなり満足。

また旗の根元にエサ打ちし、勝利のお茶２だ。すると今度は２番竿だ！かなり竿が曲がっている、ジージーとクリック音。竿のしなりを

写真に収め竿を取る。かなり冷静で近くにいたカップルに撮影を頼む。「カッコよさそうなアングルで適当に撮ってください！」すると、女の子が「ナンか釣れてるぅ～！」・・・当たり前じゃ、釣れてるから撮ってくれってお願いしてるんだから！！結構な手ごたえなので慎重にやり取りする。我が名（迷）アシスタント、息子が網を持って来てくれて、無事ネットイン。「でかぁ！」撮影を頼んでいたお兄ちゃん。この時期８０ＵＰならかなりＯＫだろう、息子の雄大と笑顔で記念撮影！勝利のお茶３でニコニコです。

　これで３本。このポイントでは竿の数だけ釣ったら良しとしている。自宅から一番近いポイントなので大事にしたい。場荒れしない様にという事で、もう新しいエサ打ちはしない。

３番竿の穂先が返った！食い上げだ。また３番だよ、１番に来てくれればいいものを・・・と思いながらやり取りする、２本目と同じような手ごたえだ。

　その気持ちがやり取りをいい加減にさせたのだろうか？それとも鯉が察したのか？パチンッ・・・あれ？外れた・・・。これ以上釣るな

って事だよな！？うん、そうだ・・・これでオシマイにしましょう。息子と片づけを始めるが、こういう日の片付けは苦にならないですねぇ！以上、８月１７日４時４０分釣り場を離れる。今日残念だったのはリールのテストが思い通り出来なかったこと。

良い夏休みでした！

北浦釣行記　2002.5.6～8　地鶏オヤジ

前回 mi○さんと一緒して爆釣した北浦に向かった、場所が空いているか不安はあったが昨晩の勤務終了が深夜のため、朝起きて釣り場に向かう時間がどうしても午後になってしまう。目的のポイントはラッキーなことに空いていた。

直ぐ近くには離島荒磯会のＮ口さんが竿を出していて一言「隣に竿出します」と断って竿を出す。14 時 30 分頃に竿を出し終えて隣のＮ口さんとしばし釣り談議する。Ｎ口さん５月２日から竿を出していて、えさは練りとのこと、釣果は７０台がやっととさえない様子。Ｎ口さんとの釣り談議中に、６番の竿が動いたのを確認し竿に向かって走りだすとセンサーが鳴り出した。しかし、竿まで来ると糸の出る気配は無く念の為、あげてみるも魚は付いていなかった。その後、Ｎ口さんが帰宅の準備を始めるもその横で相変わらず邪魔をしながら自分の竿を見ていると２番の竿があたって糸も出ていた。竿を持つと魚の手ごたえがあったが直ぐに軽くなりバラシてしまった。竿を出して３時間以内に２回のあたり、今回も期待できると確信するもその後あたりなし。

５月７日朝３時にセンサーが入って飛び起きる！手ごたえからするとまずまずと判断、釣り上げて検量するとぎりぎり９０ｃｍでも嬉しかった。その日は雨がひどくなりこんな時にあたったらどうしよう？と考えていましたが幸い？あたりなし。

５月８日朝７時にセンサーが入って４番の竿にあたりあり、８３ｃ

ｍ。お昼頃ウナギのえさ採りのため竿から３００ｍ以上離れている時センサーが入って慌てて戻るも竿まで来るともうバテバテ、しかし魚はまだ付いているようで上げてみると７０ｃｍ。段々型が小さくなって行く。

午後１時の時報と同時にセンサーが入り２番の竿があたって、やり取りの途中でバレテしまった。気を取り直しえさうち直した後、13 時 47 分に再度センサーが鳴った。今度は 5 番の竿慎重にやり取りしょうと考えるも直ぐにすっぽ抜けてしまい、またもやバラシ！何で～！何で～！と思いながら悔しがる。

それから 15 分のしない内にまたセンサーが入り今度は 4 番の竿、手ごたえも充分で中々寄らない。なんとか寄せてタモに収まるも、持ち上げるとかなりの重量、検量の結果９６ｃｍで自己ベストタイの記録（長さは同じでも重量ははるかにこちらが BIG）重量は推定で 14～15ｋｇ？前回 mi○さんが釣ったデブ」鯉と同じくらい。

15 時納竿近くに、常陸利根川で竿を出していた、T 村さんがやって来て私の 2 本の鯉を見てビックリしてました。T 村さんに写真撮ってもらって T 村さんは私と入れ替わって竿を出しました。

私は後ろ髪をひかれる思いで帰宅。5 月に入ったとたん 90 台 4 本＋1 本、何か怖くなってくる、しかしこれが本来の実力か・・・？単なる偶然ですね！

釣果　：　９６ｃｍ、９０ｃｍ、８３ｃｍ、７０ｃｍ。（その他のアタリ 4 回）

えさ　：　タニシ

天気　：　5/6　曇り、　5/7　雨、　5/8　曇り

水温　：　18．5℃

プロジェクトＹ　2002.5.2～3　山羊

またやってしまった。あまり大物を釣りなれていない証拠だった。５月３日午前６時５５分天候晴れ、無風、気温約１０度の霞ヶ浦湖岸に山羊は立っていた。昨日から竿を並べていたのは、まだアタリのないＨ野と平石だった。二人はまだ就寝中なのか、車から外に出た様子はなかった。

久しぶりに鳴ったセンサーの音はルパンではないノーマルのプー音だった。山羊は慌てることなく車外に出た。ふと横に目をやるとＨ野の姿がそこにはあった。ゆっくりと落ち着きながら２番竿をアワセる。かなりの手ごたえ。沖の杭に走っていく。しかし山羊には余裕があった。Ｈ野を呼びカメラを車へ取りに行かせた。「このファイトを撮ってくれ」Ｈ野は慌てていた。８０いや９０はある。山羊は竿をしならせポーズをきめた。そして魚は止まった。

すべてはこれで終わりだった。ラインの動きが見えていたＨ野は慌て、逆光でラインが見えていなかった山羊は落ち着いていたのだ。それは余裕ではなく単なるヘタクソだった。竿もリールも一流だった。

山羊がポーズをしているとき、頭の中にはメーター鯉を抱きかかえる自分の姿をうらやましそうに写真を撮るＨ野がいる光景を浮かべていたのである。バカだった。結局杭にでも巻かれたのか、ラインが根がかり状態になり仕掛けだけを回収した。

午後にもアタリ、今度は慎重にとアワセたら…ぶちっ。これで終わりだった。

こんな山羊には、鯉など釣れるはずなどなかった。しかし山羊は、初鯉を求めることをやめようとはしなかった。

（TV 番組「プロジェクト X」風の釣行記です）